

発電所内のモニタリング状況等について

2015年10月30日

東京電力株式会社



東京電力

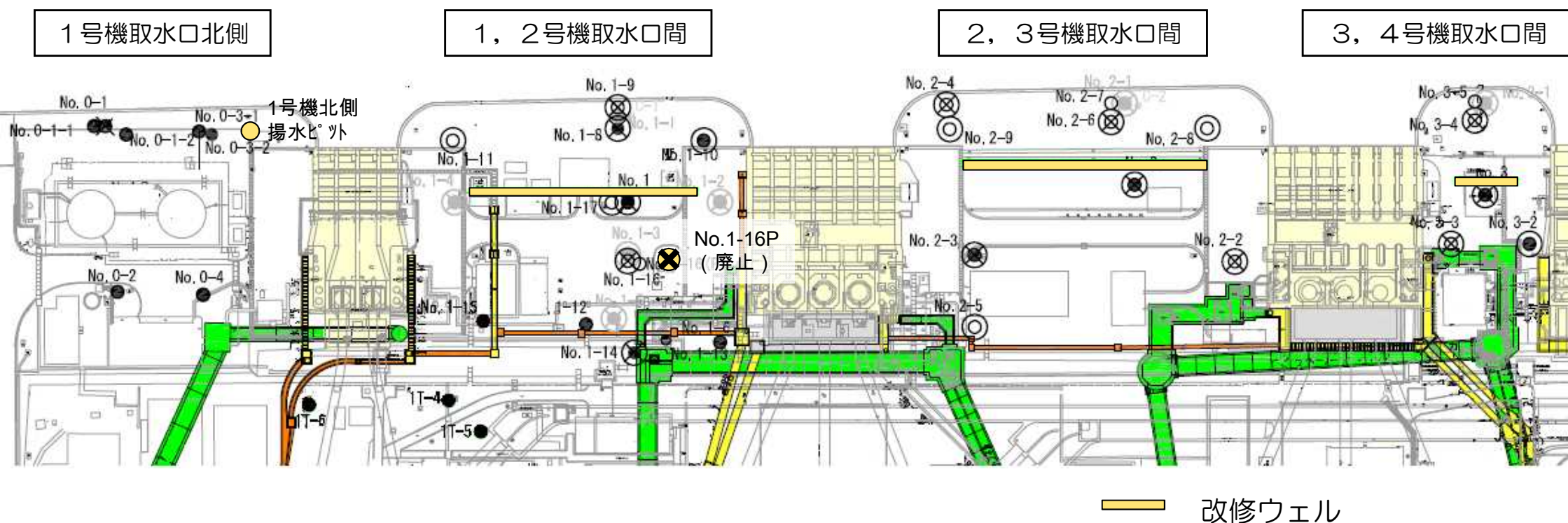
資料目次

- (1) 港湾内・外および地下水の分析結果について
- (2) 地下水バイパスの運用状況について
- (3) サブドレン他水処理施設の運用状況について

(1) 港湾内・外および地下水の分析結果について

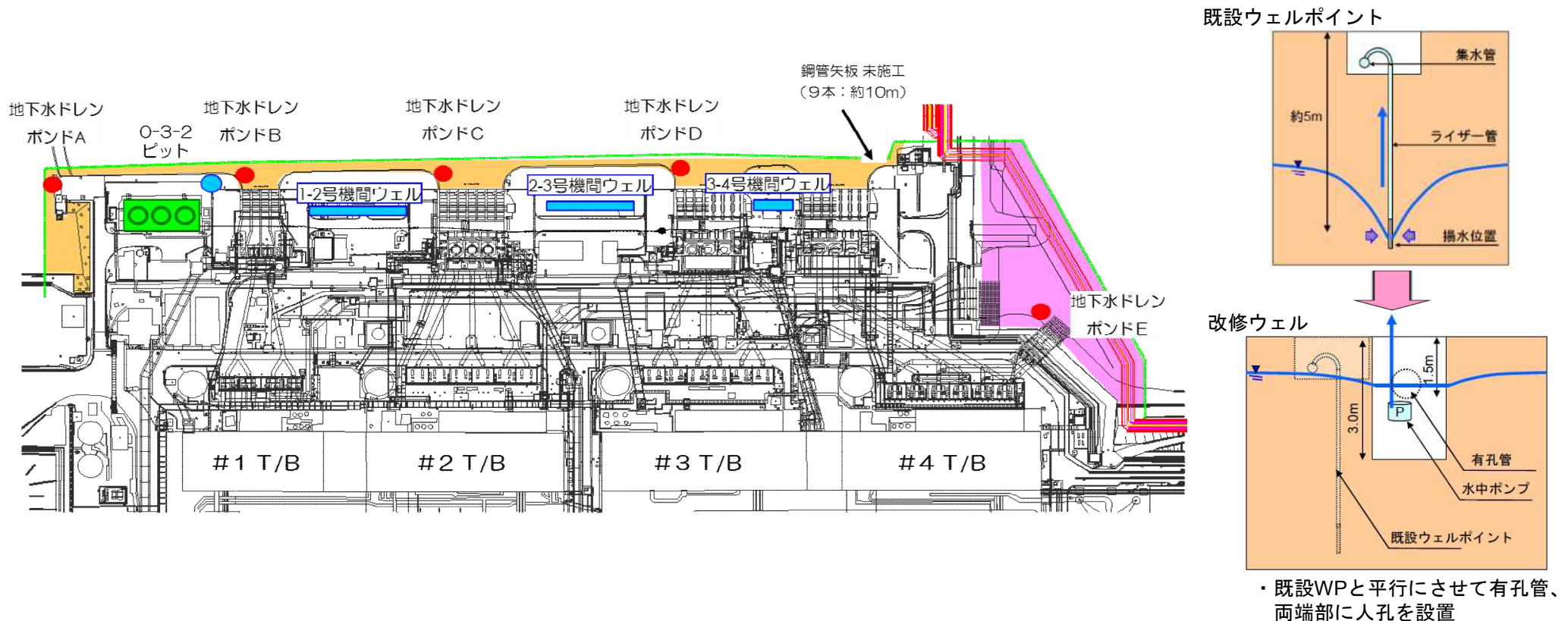
タービン建屋東側の地下水観測孔の位置

- 前回以降、新たな観測孔の設置、廃止は無い。
- 1号機取水口北側では、地下水観測孔No.0-3-2の仮設ポンプによるくみ上げを、新たに設置した揚水ピットによる汲み上げに変更。
- 先月の3, 4号機取水口間に続き、1, 2号機取水口間、2, 3号機取水口間で、信頼性を向上した改修ウェルを稼働。
- 1, 2号機取水口間の仮設汲み上げ用井戸No.1-16Pを廃止。



改修ウエルの稼働について

- 1, 2号機取水口間、2, 3号機取水口間の改修ウエルを10月14日より稼働。
- 3, 4号機取水口間の改修ウエルについては、9月17日より稼働済み。
- 既設ウエルポイントについては、バックアップとして当面維持。

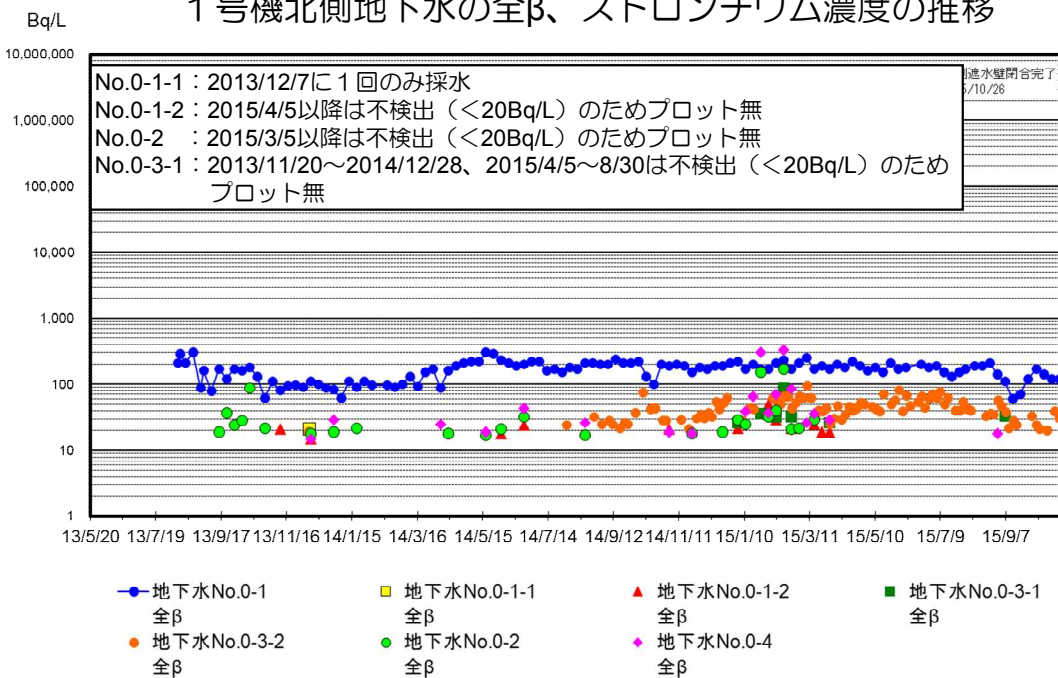


- ・ 既設WPと平行にさせて有孔管、両端部に人孔を設置

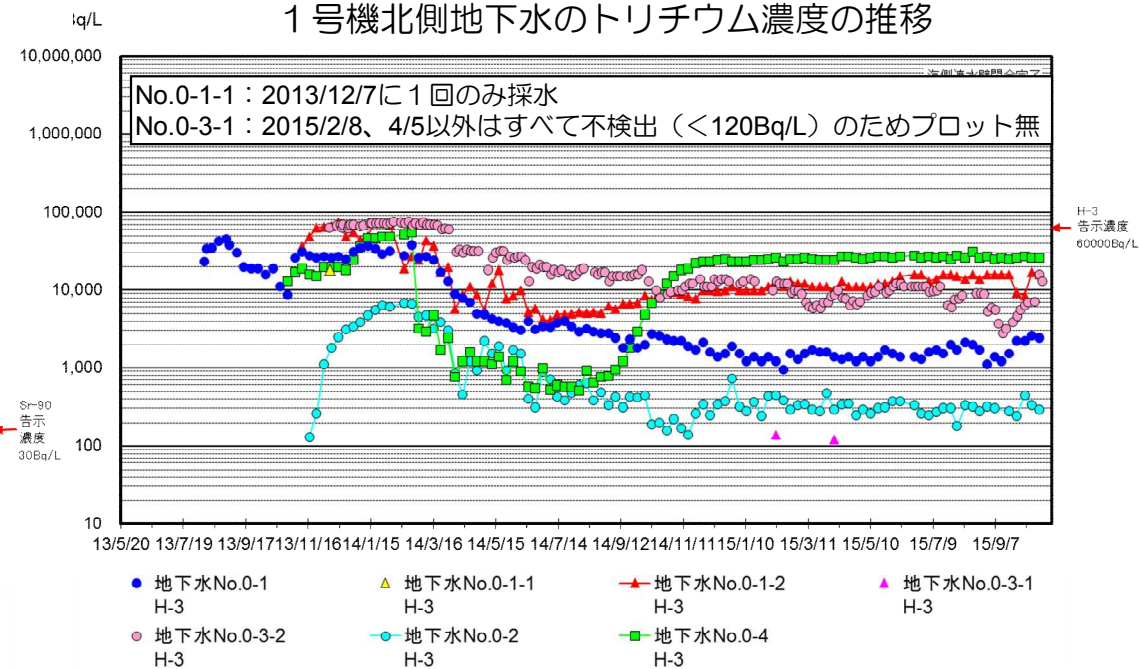
タービン建屋東側の地下水濃度の状況<1号機取水口北側エリア>

- 先月以降、大きな変化はみられていない。
- 当面監視を継続する。

1号機北側地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



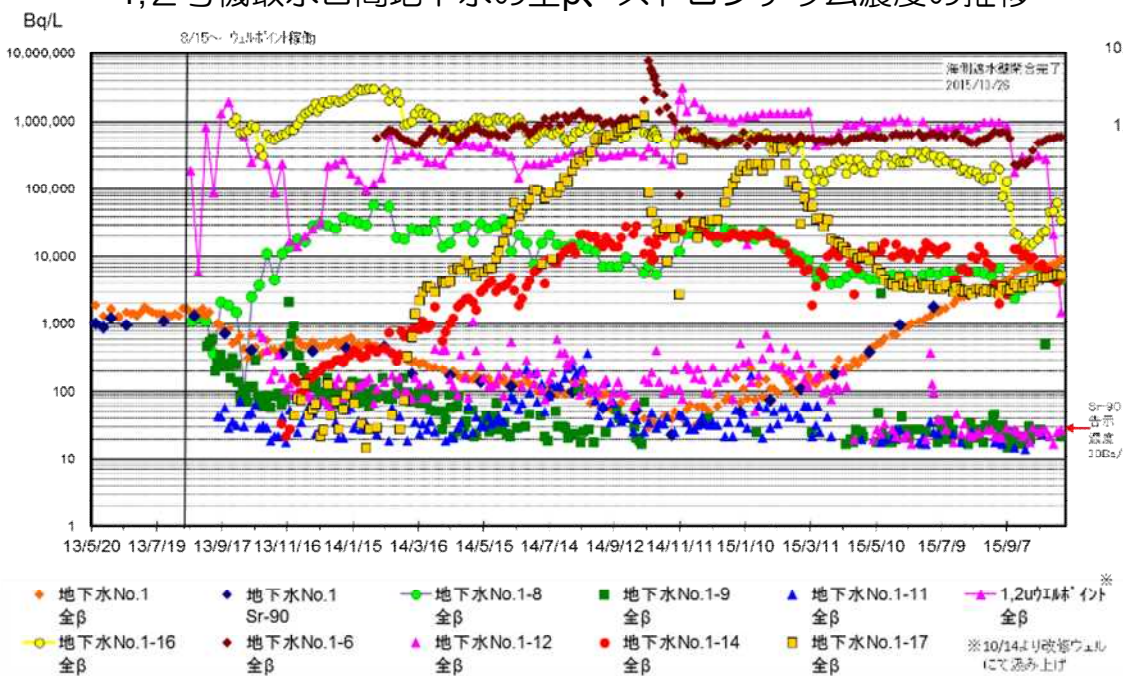
1号機北側地下水のトリチウム濃度の推移



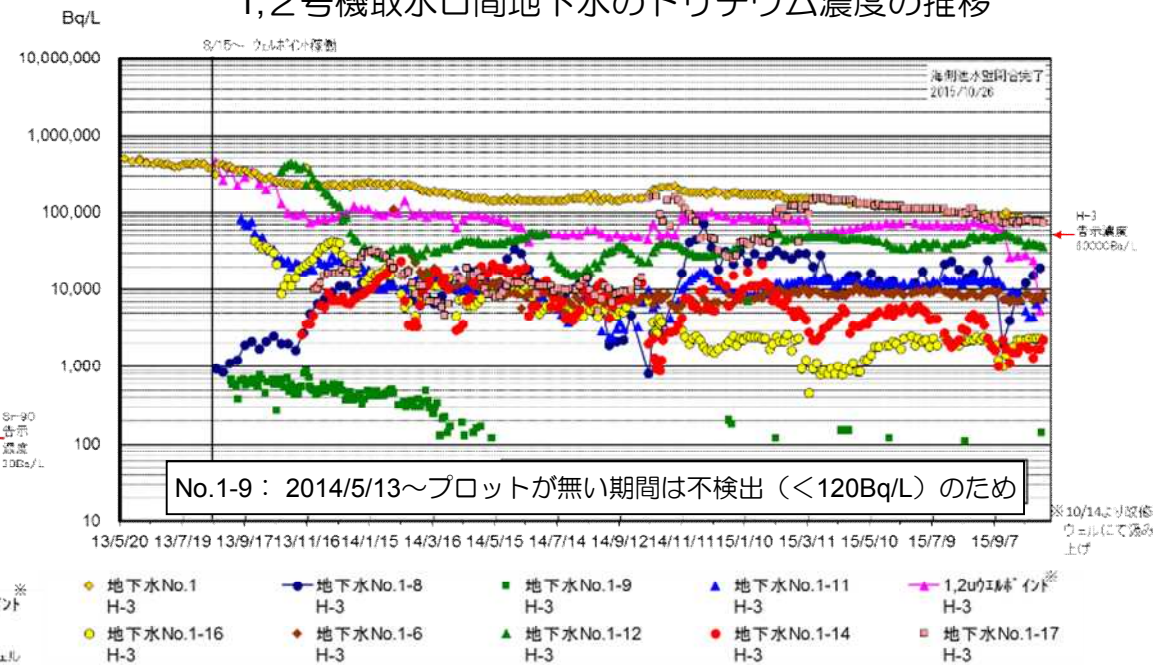
タービン建屋東側の地下水濃度の状況<1,2号機取水口間エリア>

- NO.1-16の全β濃度は、数万Bq/Lまで低下。
- トリチウム濃度については、濃度の高いNo.1、No.1-17で低下傾向継続。
- 地盤改良の外側に位置するNo.1-9の濃度は、変動は無く低いままであり、外部への影響は無いものと考えられる。
- 改修ウェルにより汲み上げたウェルポイント汲み上げ水の濃度は、設備の変更に伴い変動。
- 当面監視を継続する。

1,2号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



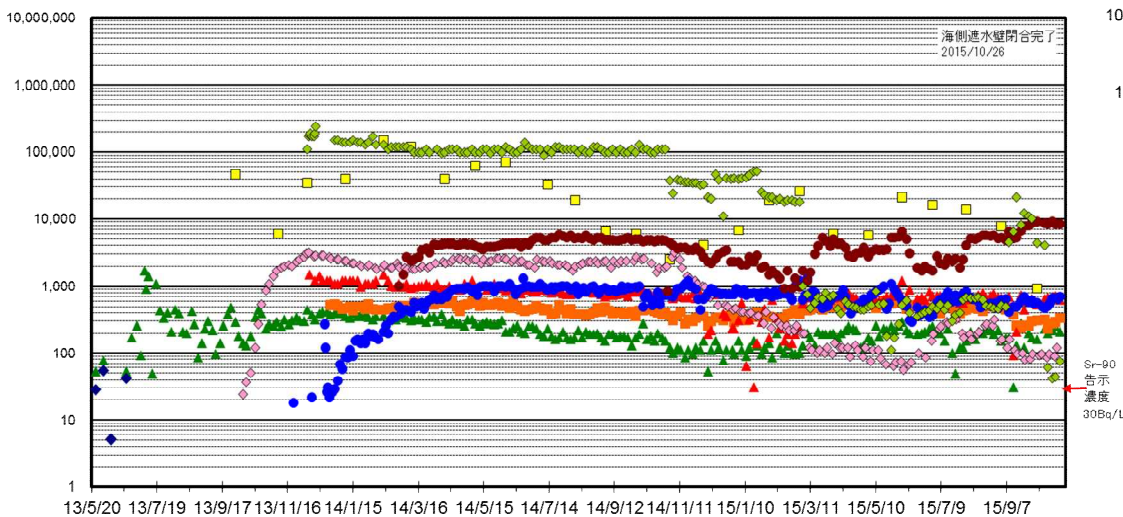
1,2号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



タービン建屋東側の地下水濃度の状況<2,3号機取水口間エリア>

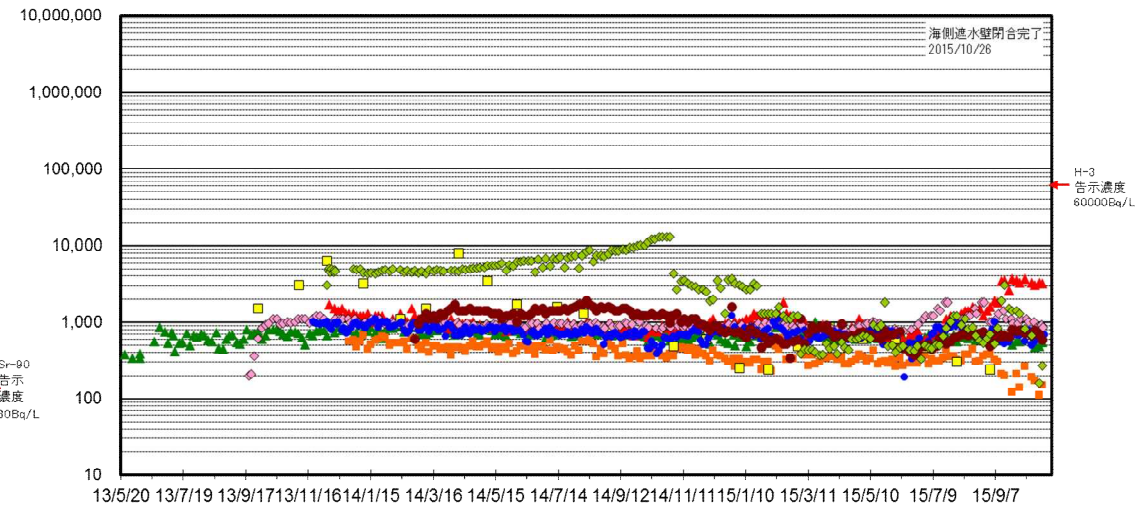
- No.2-5、No.2-8観測孔の全β濃度が高めであるが、地盤改良の外側の観測孔No.2-7では、全β、トリチウムともに1,000Bq/Lを下回る低濃度で、外部への影響は見られていない。
- 改修ウェルにより汲み上げたウェルポイント汲み上げ水の濃度は、設備の変更に伴い変動。
- 当面、監視を継続する。

Bq/L 2,3号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



- ▲ 地下水No.2 全β
- ◆ 地下水No.2 Sr-90
- 地下水No.2-2 全β
- ▲ 地下水No.2-3 全β
- 地下水No.2-5 全β
- ◇ 地下水No.2-6 全β
- 地下水No.2-7 全β
- 地下水No.2-8 全β
- ◆ 2,3uウエルポイント※ 全β ※10/14より改修ウェルにて汲み上げ

Bq/L 2,3号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移

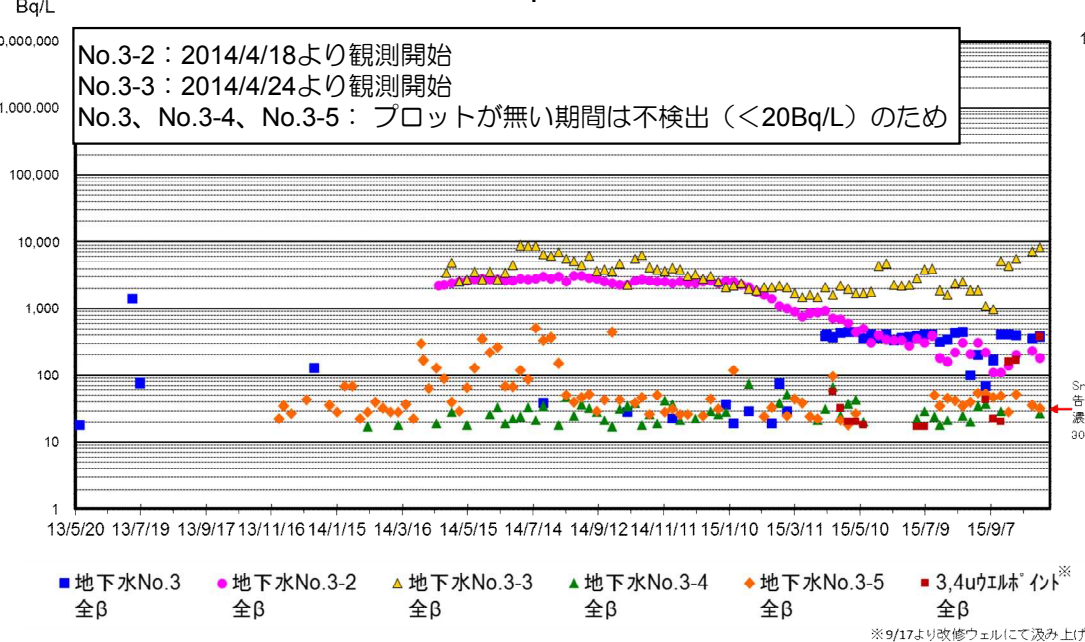


- ▲ 地下水No.2 H-3
- 地下水No.2-2 H-3
- ▲ 地下水No.2-3 H-3
- 地下水No.2-5 H-3
- ◇ 地下水No.2-6 H-3
- 地下水No.2-7 H-3
- 地下水No.2-8 H-3
- ◆ 2,3uウエルポイント※ H-3 ※10/14より改修ウェルにて汲み上げ

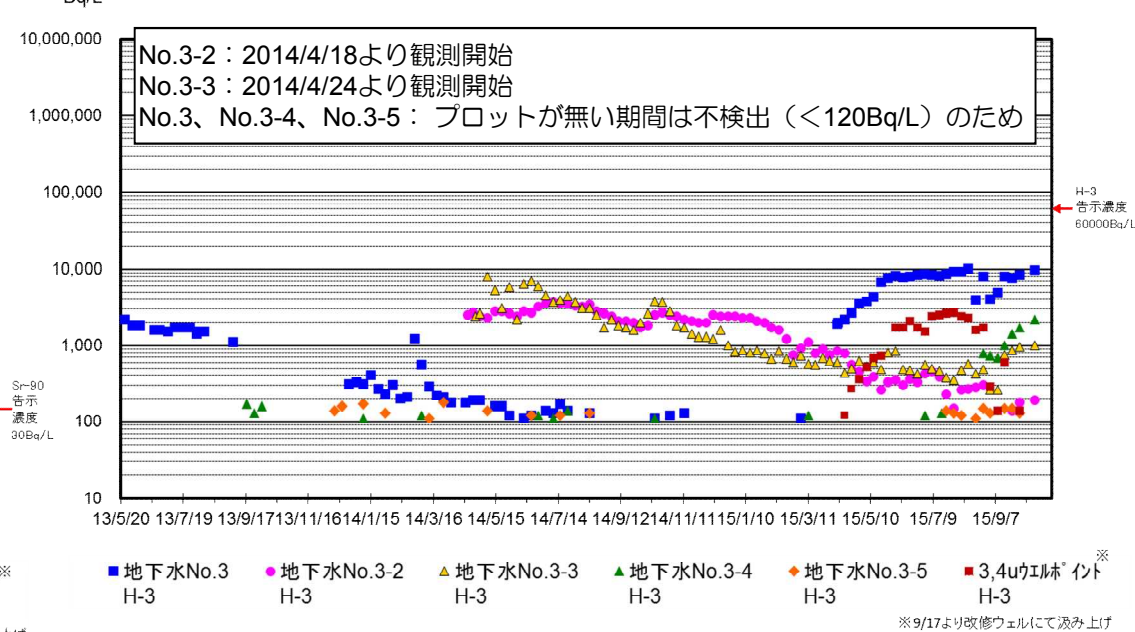
タービン建屋東側の地下水濃度の状況<3,4号機取水口間エリア>

- 先月以降、No.3-4のトリチウム濃度が上昇したが、上流側（山側）のNo.3に比べれば低い濃度。
- No.3-3の全β濃度が1年前と同じ程度まで上昇。
- 改修ウェルにより汲み上げたウェルポイント汲み上げ水の濃度は、設備の変更に伴い変動。
- 地盤改良外側の観測孔No.3-5では、全β、トリチウムともに100Bq/L程度の低濃度で、外部への影響は見られていない。
- 当面監視を継続する。

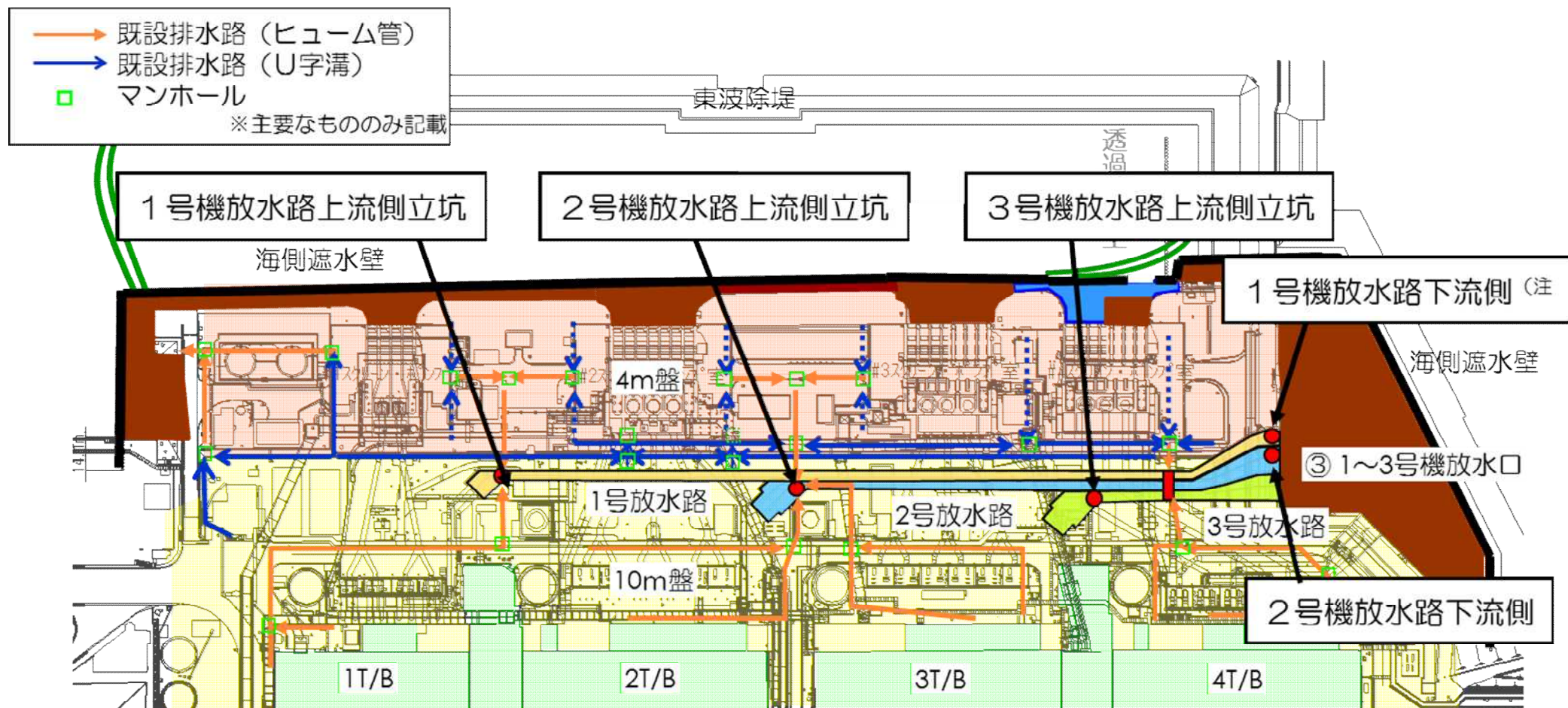
3,4号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



3,4号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



1～3号機放水路及びサンプリング位置図(平面図)

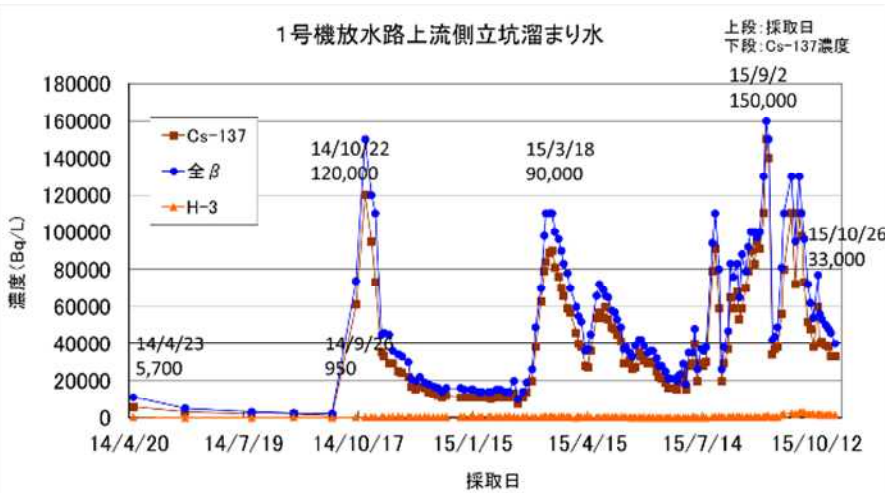


注：ゼオライト土のう設置（2月）以降、放水口から下流側立坑へのアクセス不可のため、放水口上部より採水

1号機放水路サンプリング結果

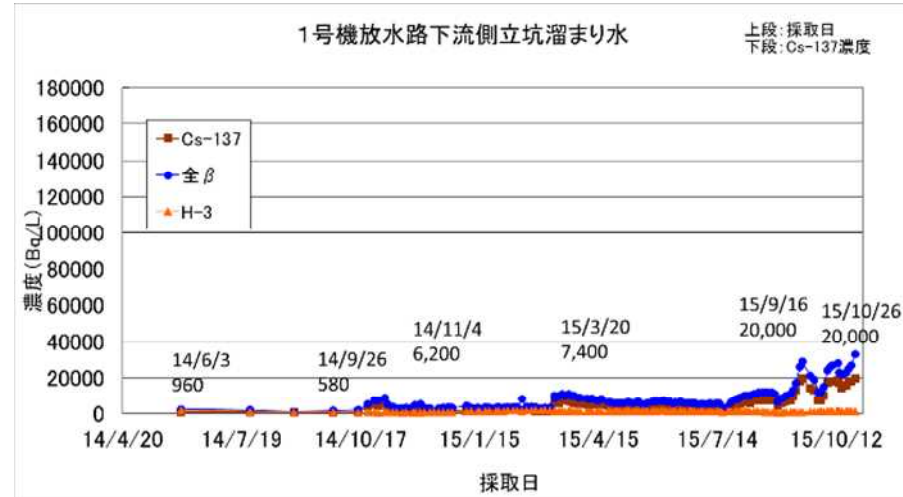
- 上流側立坑では、8月～9月中旬の降雨により、セシウム濃度の上昇が見られたが、晴天が続くと濃度は低下。
- 9月上旬から中旬の降雨で、放水路下流側でもセシウム137濃度が上昇し、ゆるやかに低下中。
- 放水路出口（放水口）へのゼオライトの設置は完了しており、準備が整い次第放水路溜まり水の本格浄化を開始する。

1号機放水路上流側立坑溜まり水



1号機上流側立坑流入水
(1号T/Bル-7ドレ)
・T/B東側地表
調査日：14/10/6
Cs134：420
Cs137：1500
全β：1400
H3：9.9
(単位：Bq/L)

1号機放水路下流側立坑溜まり水

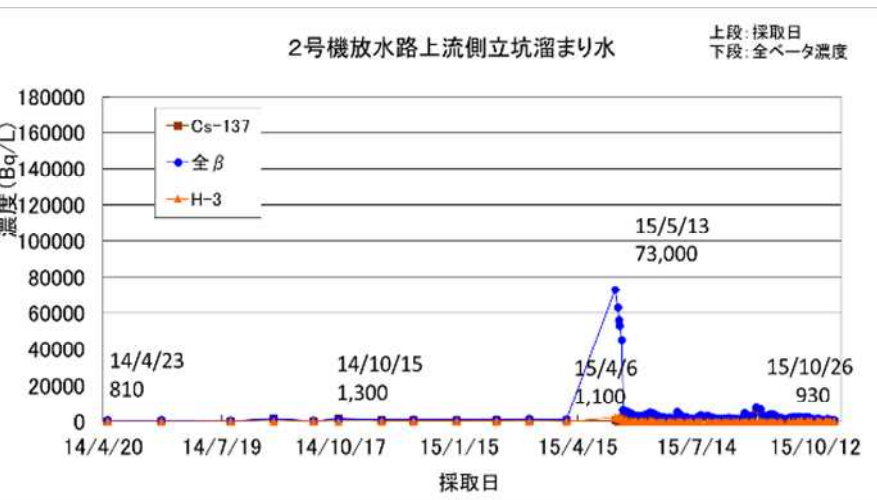


1号機放水路縦断面図（縦横比1：5）

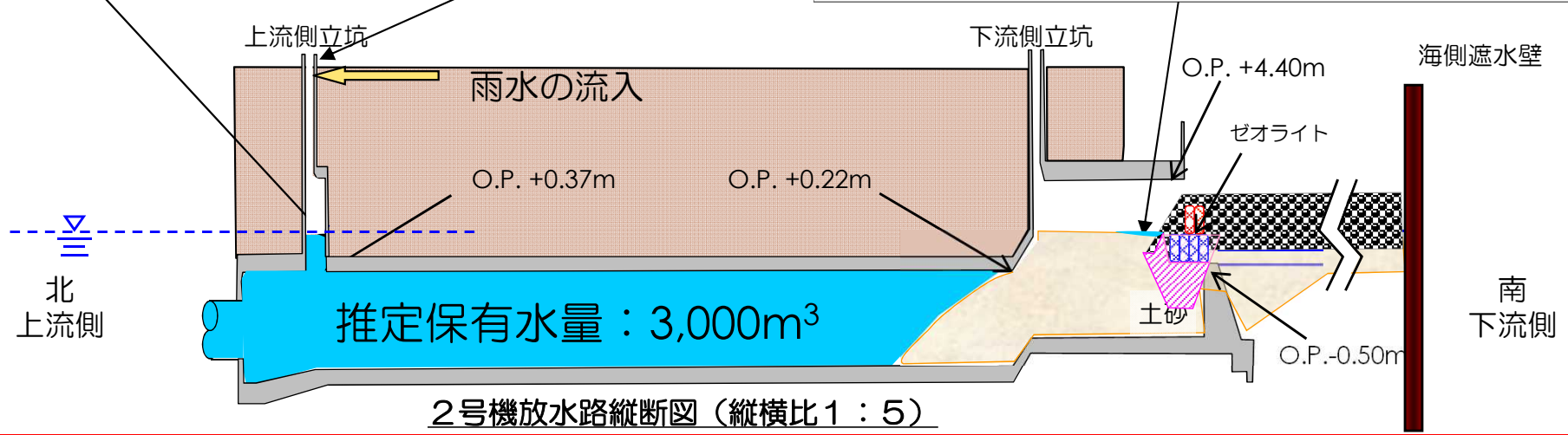
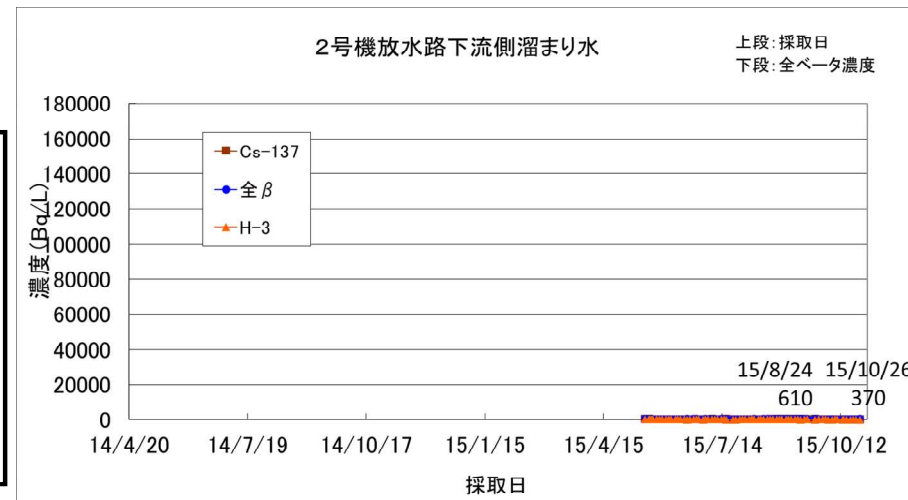
注：放水口へのゼオライト設置により、放水口内への立ち入りができなくなったことから、3/20より放水口上部開口部から採水することとした。

2号機放水路サンプリング結果

- 2号機放水路上流側立坑の溜まり水の全ベータ濃度は、降雨時に若干の上下はあるものの、6月以降は1万Bq/Lを超える上昇は見られていない。
- 6月以降の全ベータ濃度の変動は、雨水排水の流れ込みによるセシウム濃度の変動によるものと考えられる。
- 放水路下流側の全ベータ濃度も低濃度のまま上昇は見られていない。
- 5/13の濃度上昇は、一時的な少量の流入があったものと考えられるが、再現性は見られない。



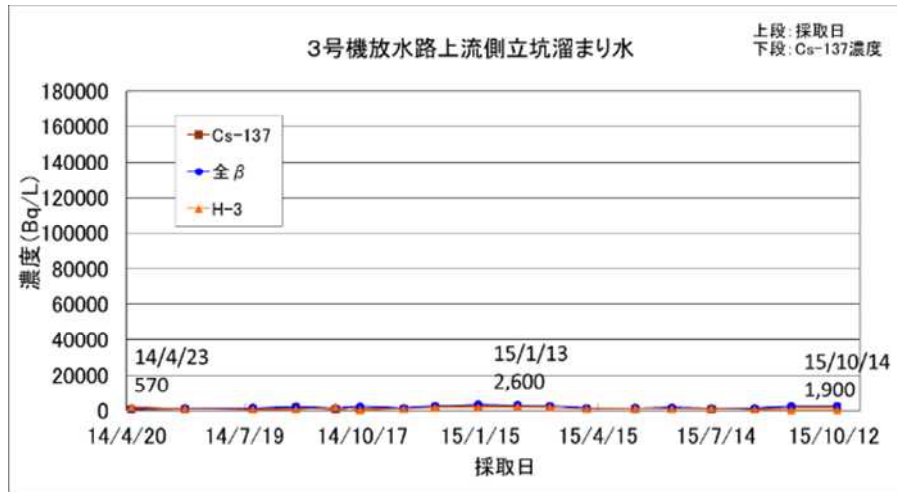
2号機上流側立坑南側流入水
(3号T/Bドレ)
 ・T/B東側地表
 調査日：15/5/19
 Cs134：1,500
 Cs137：5,700
 全β：7,700
 H3：ND(110)
 (単位：Bq/L)



2号機放水路縦断面図 (縦横比1:5)

3号機放水路サンプリング結果

- 3号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、降雨により若干の上下はあるものの、1,000～2,000Bq/L程度で推移。
- 放水口へのゼオライトの設置は完了済み。
- 引き続きモニタリングを継続する。



3号機上流側立坑流入水
(3号S/Bルフト・T/B東側地表)

調査日: 14/6/12

Cs134	: 1,400
Cs137	: 4,100
全β	: 4,800
H3	: ND(9.4)

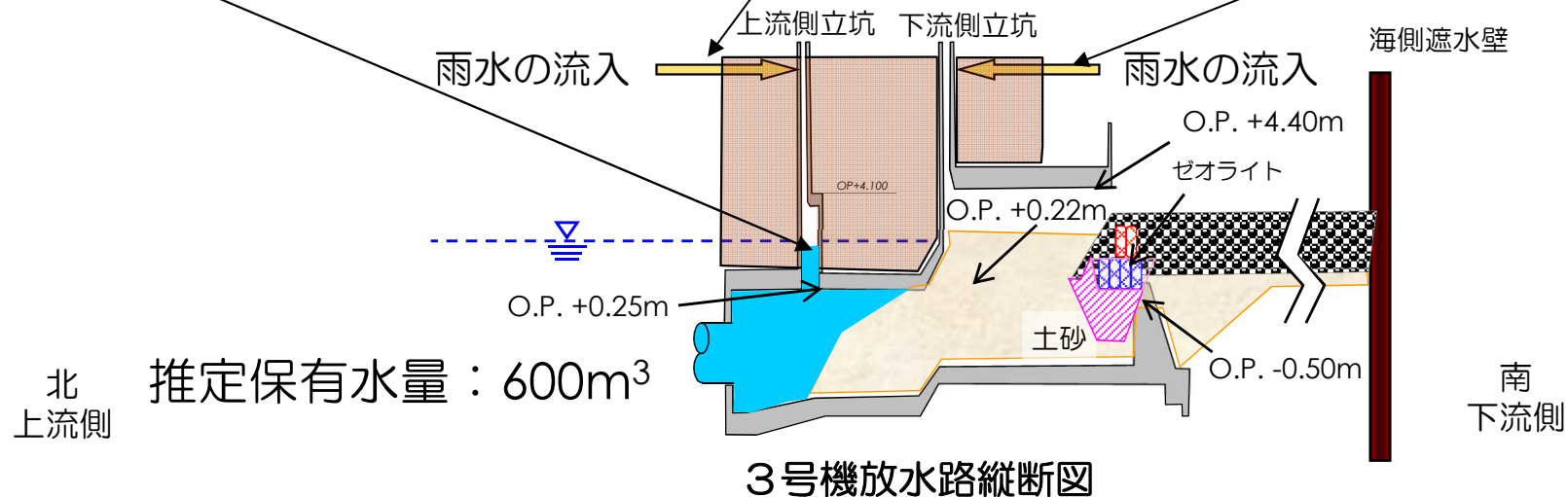
(単位: Bq/L)

3号機下流側立坑流入水
(4号T/B建屋周辺雨水)

調査日: 14/6/12

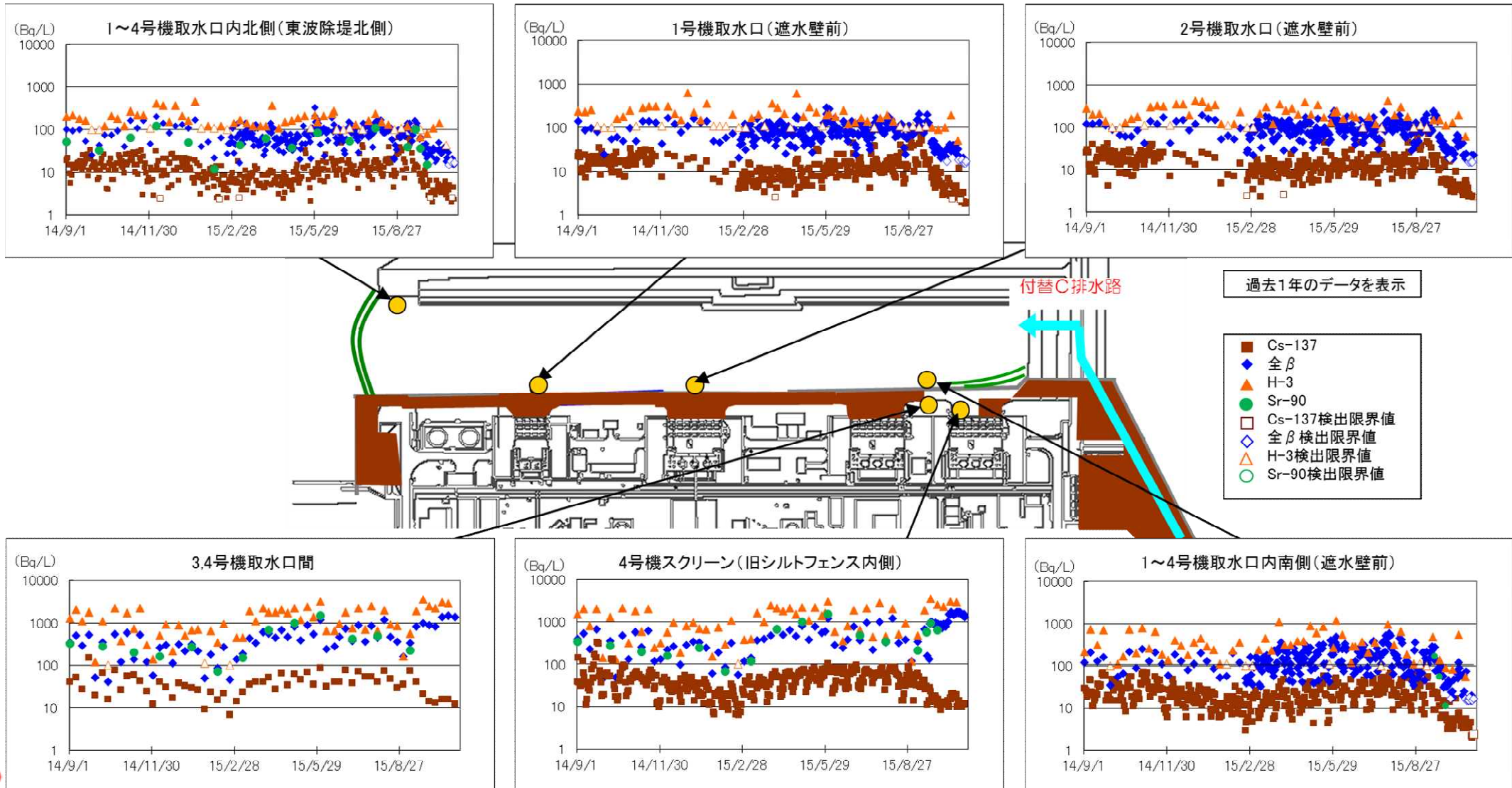
Cs134	: 1,000
Cs137	: 2,800
全β	: 3,900
H3	: 13

(単位: Bq/L)



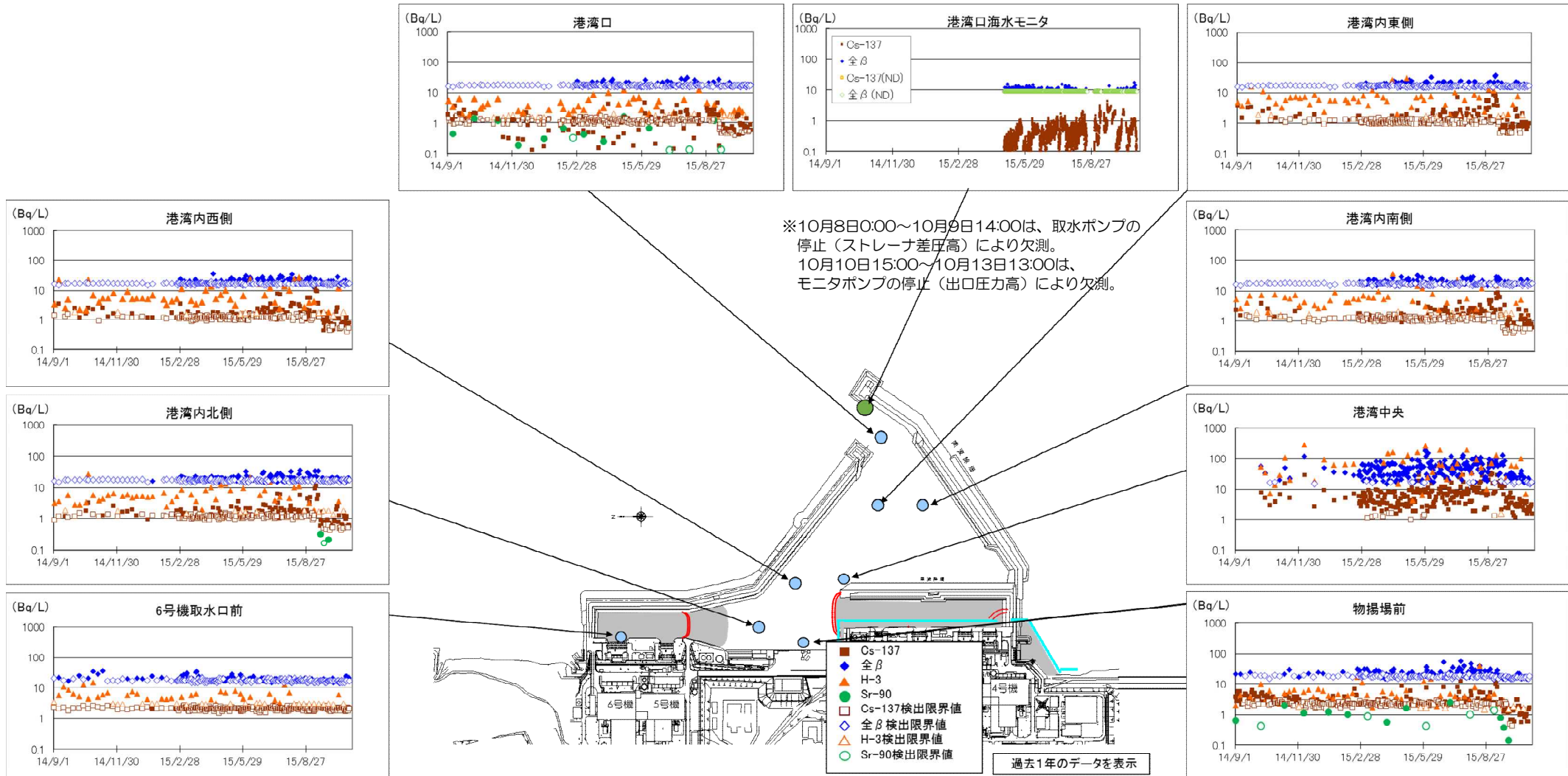
1～4号機取水口付近の海水サンプリング結果

- 海側遮水壁工事は、鋼管矢板の打設を9月22日に終了。継ぎ手部止水工事を10月26日に終了。
- 9月下旬以降、降雨の少ない状況が継続しており、1～4号機取水路開渠内のセシウム、全ベータは低濃度を継続。



港湾内の海水サンプリング結果

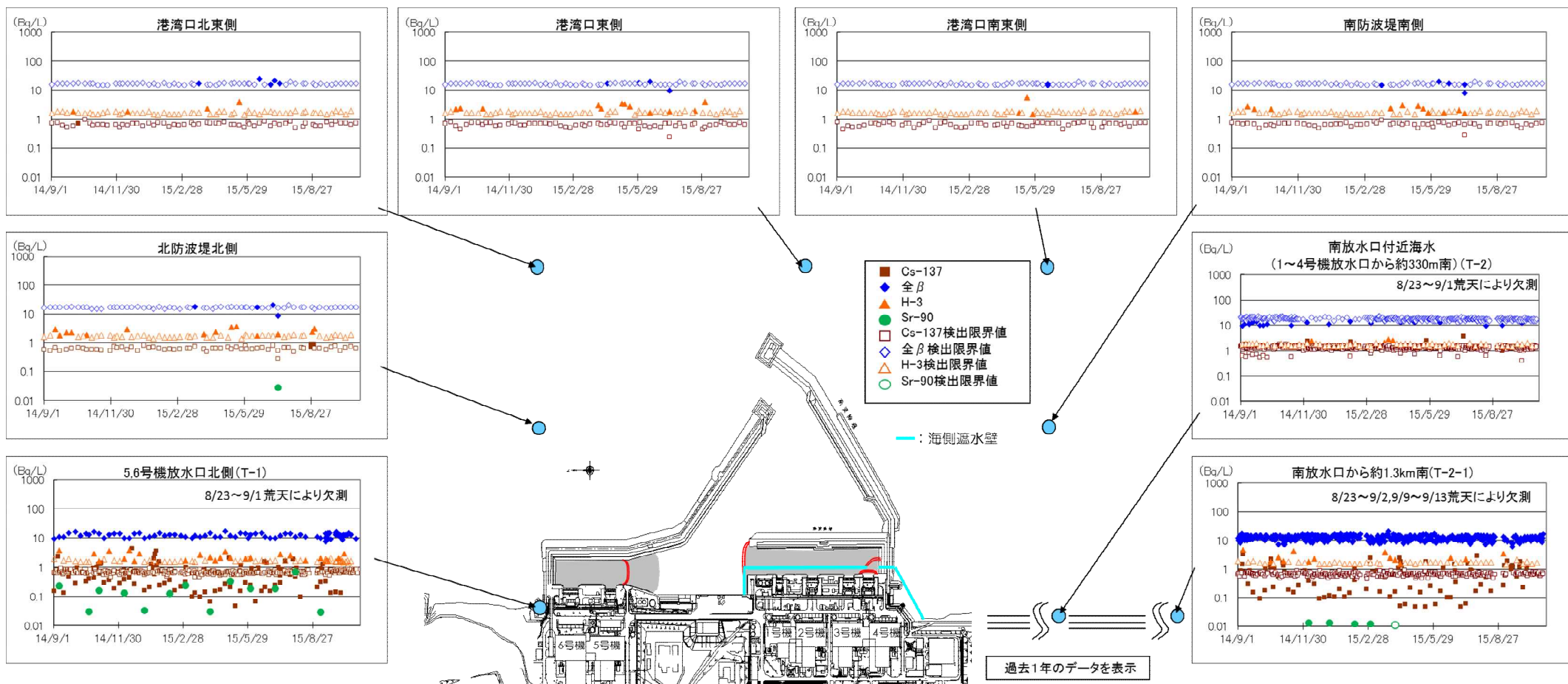
- 先月以降降雨が少なく、セシウム濃度は低濃度で推移。
- 9月14日より、サブドレン・地下水ドレン浄化水の排水を開始し、10月16日まで港湾口のトリチウム分析を強化していたが、海水中放射性物質濃度に変化は見られなかった。



※ 港湾口海水モニタの検出下限値は、Cs-137が0.05Bq/L、全βが8.7Bq/Lであり、Cs-137の検出下限値はグラフの下限値未満でありプロットされていない。

港湾外（周辺）の海水サンプリング結果

- 港湾外の各採取点は、全体に低濃度の横ばい状態で、特別な上昇は見られていない。
- 9月14日より、サブドレン・地下水ドレン浄化水の排水を開始し、10月16日まで5, 6号機放水口北側の全ベータ、トリチウム分析を強化していたが、海水中放射性物質濃度に変化は見られなかった。

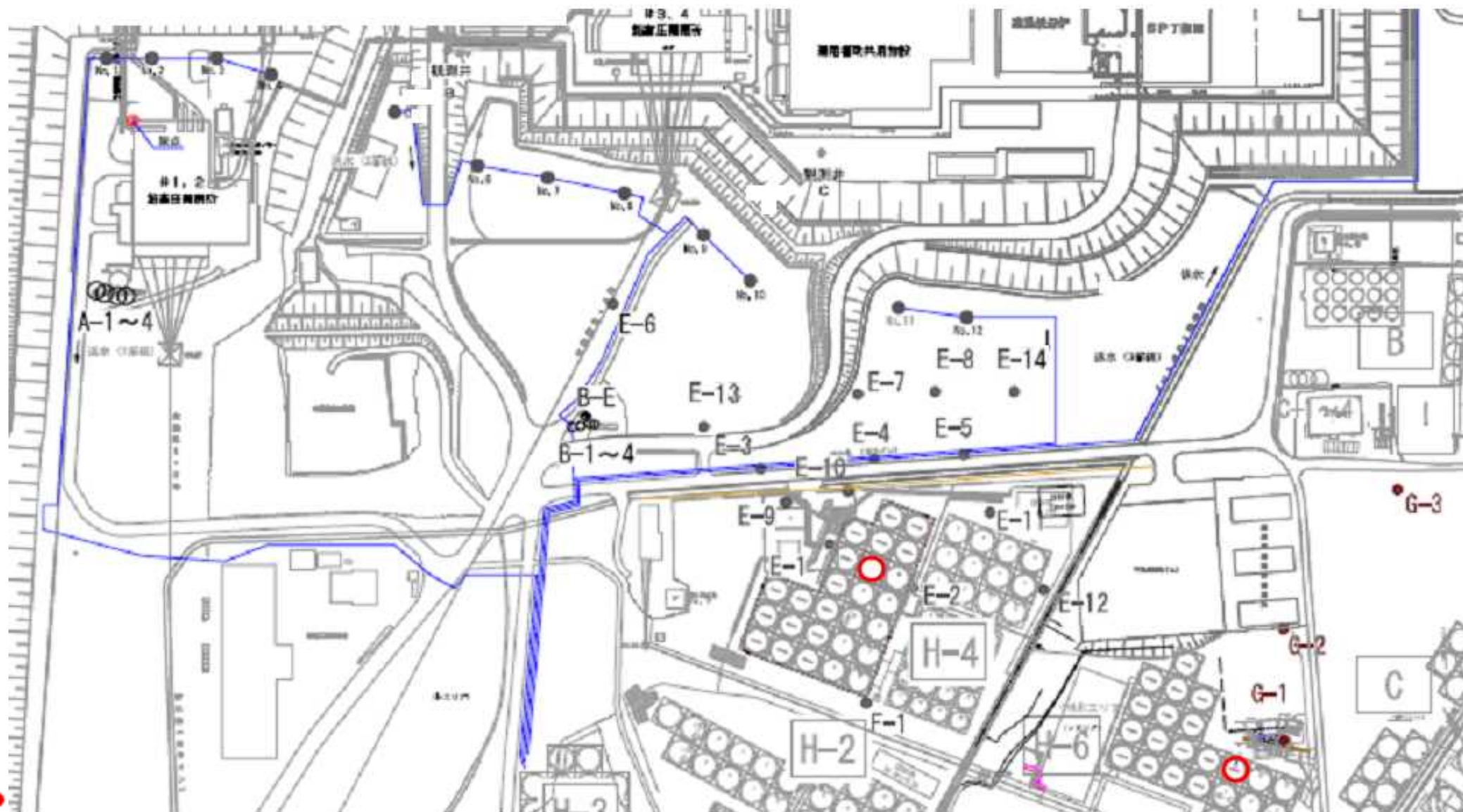


注：海域における10Bq/L前後の全β放射能の検出は、海水中の天然カリウム（十数Bq/L）の影響を受けているものと考えられる。

タンクエリア周辺の状況

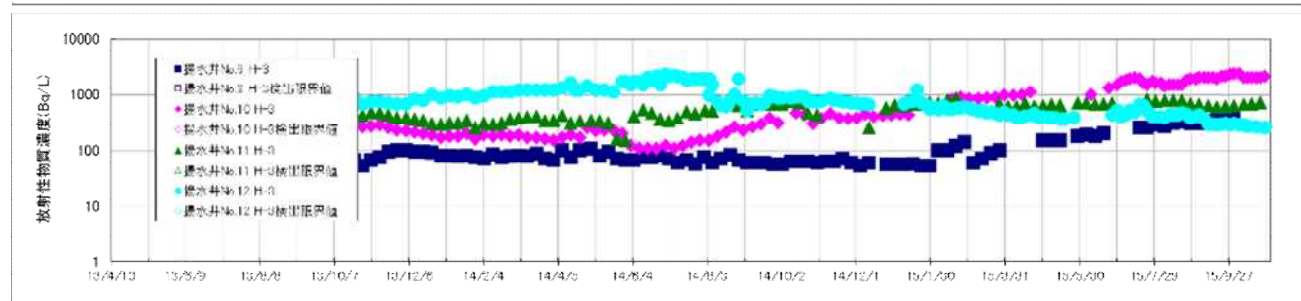
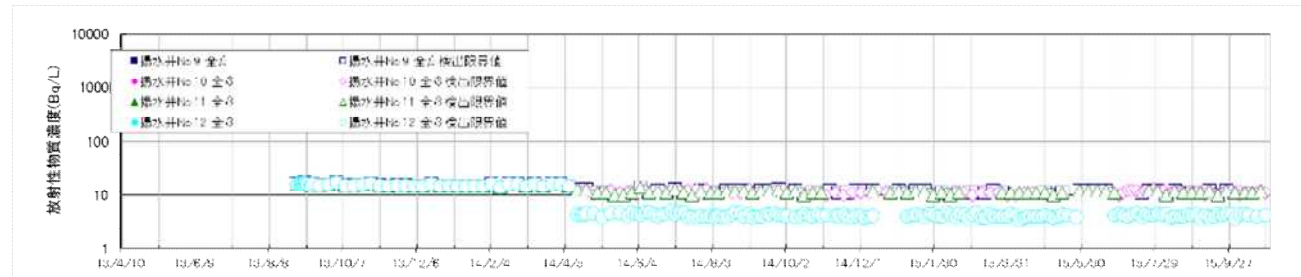
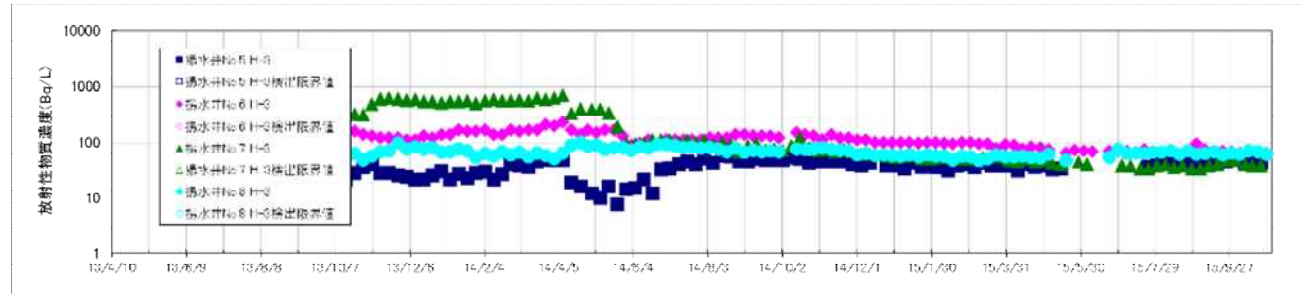
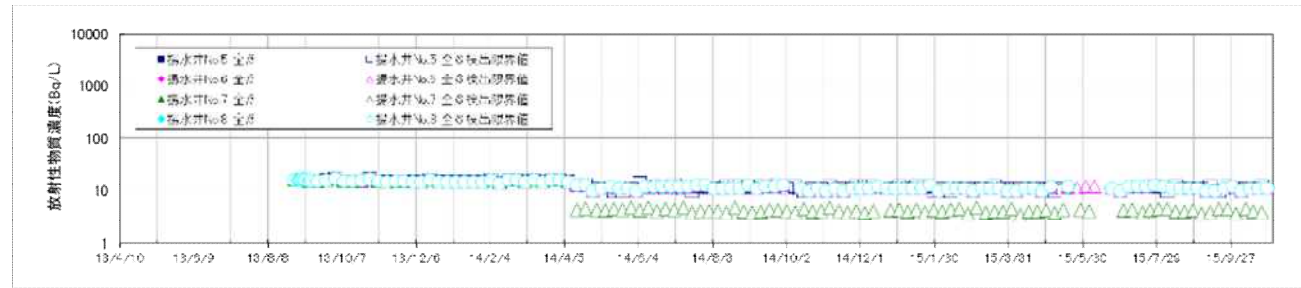
タンクエリア周辺の地下水観測孔等の位置

- 先月以降、新たな観測孔の追加は無い。

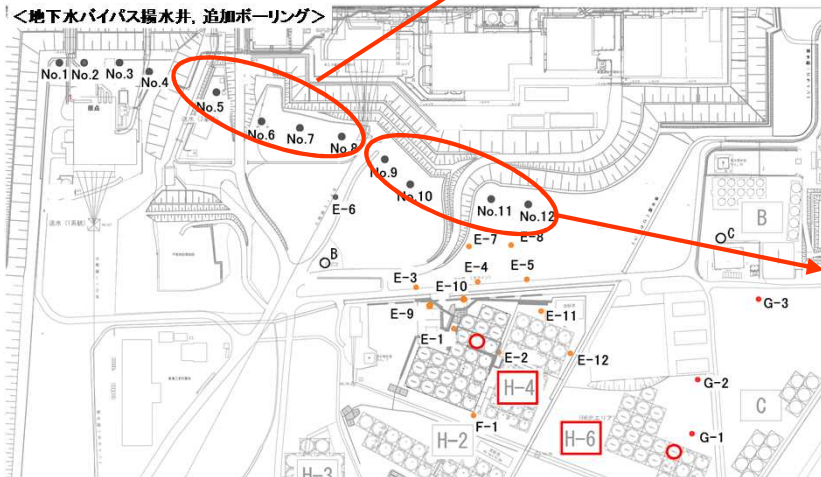


地下水バイパス揚水井の放射能濃度推移

- 地下水バイパス揚水井No.10のトリチウム濃度は、2,000Bq/L程度で横這い状況。
- その他の揚水井は、1,000Bq/L以下で推移。
- 全βには特に変化はみられていない。
- 引き続きモニタリングを継続する。

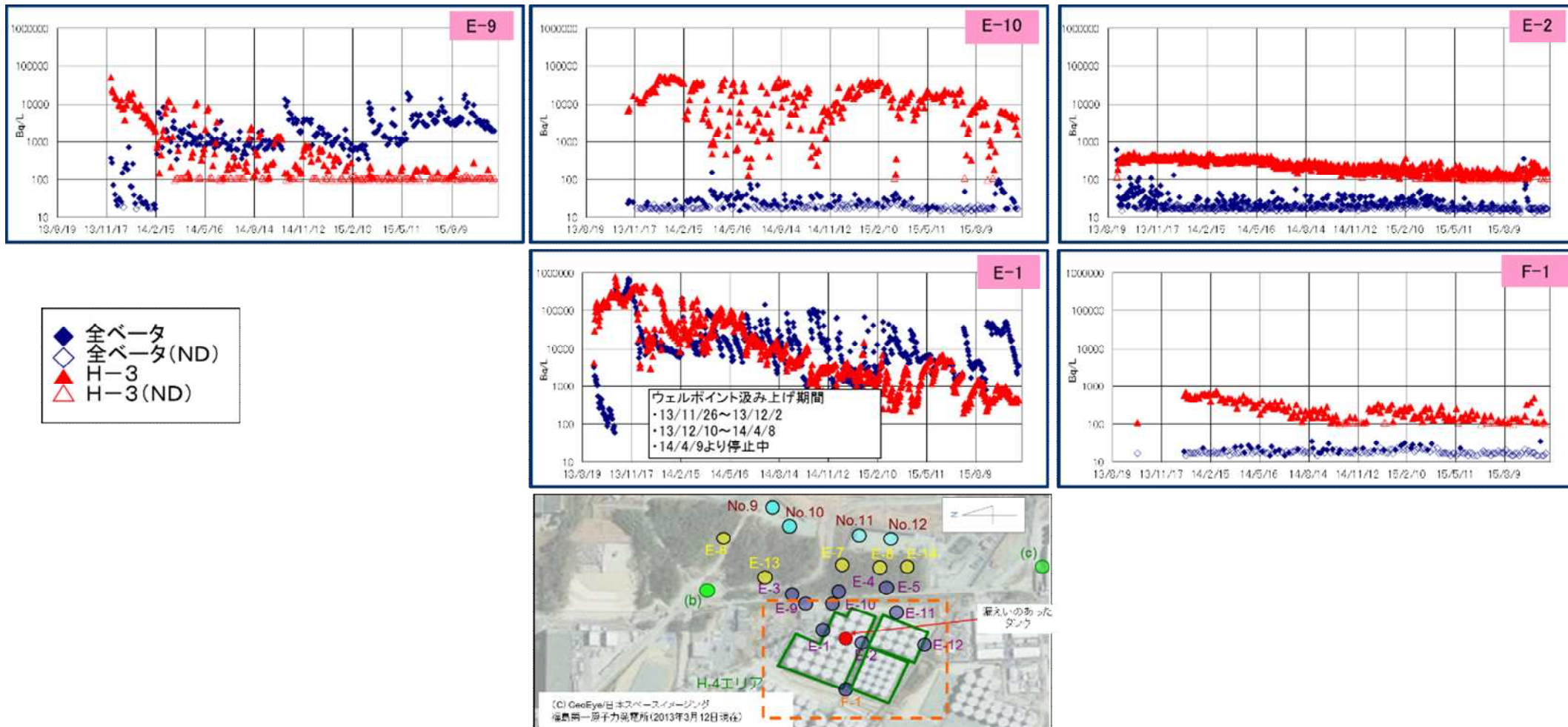


<地下水バイパス揚水井、追加ボーリング>



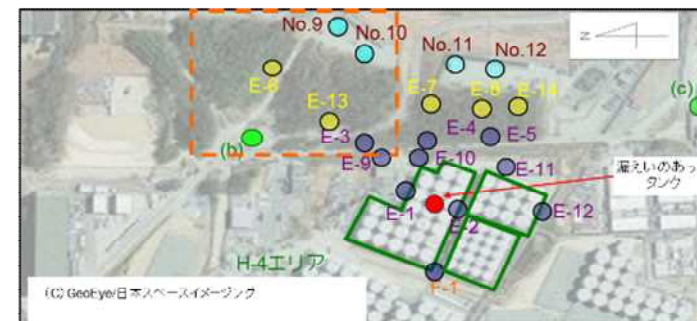
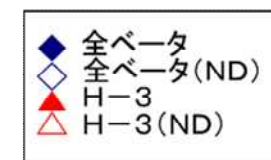
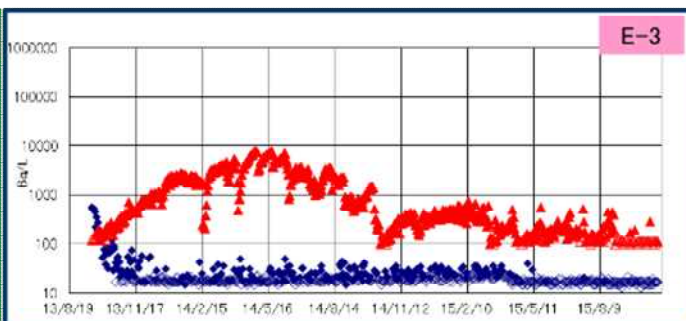
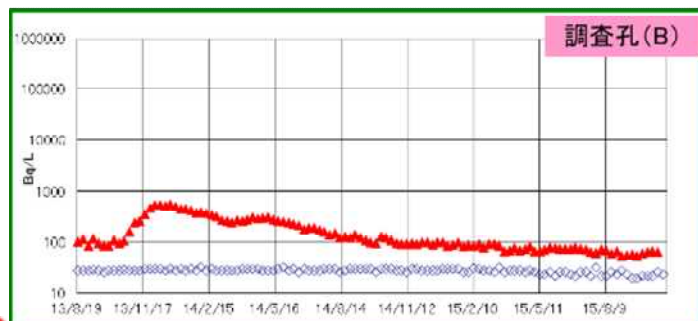
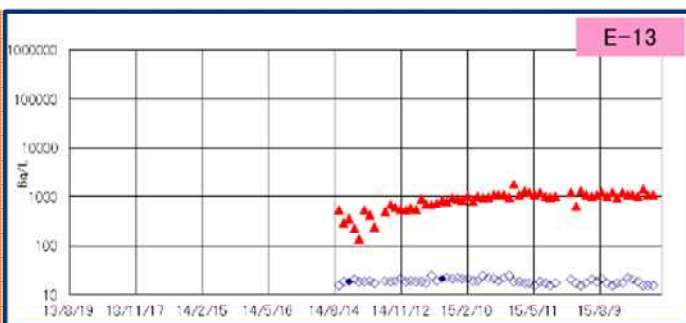
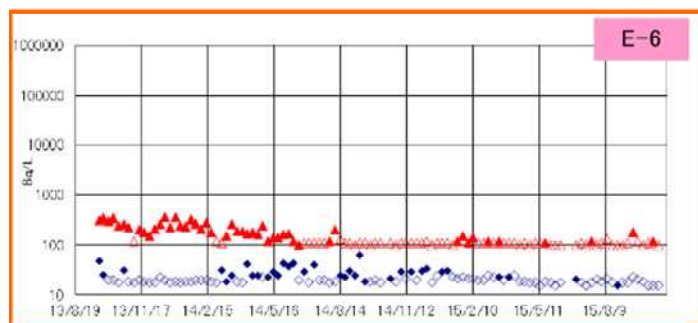
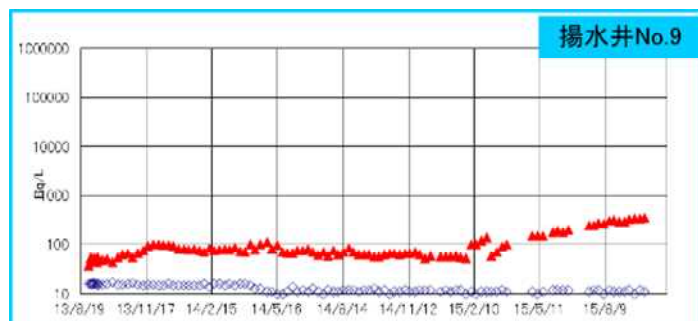
観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア)

- 9月下旬以降は降雨が少なく、9月上旬の降雨で全ベータ濃度が上昇した観測孔E-1、E-9は濃度が低下傾向。
- トリチウム濃度は、E-10のみ高めであるが、他の観測孔は1000Bq/Lを下回っている。



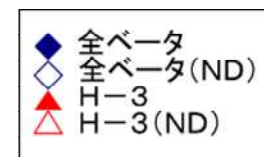
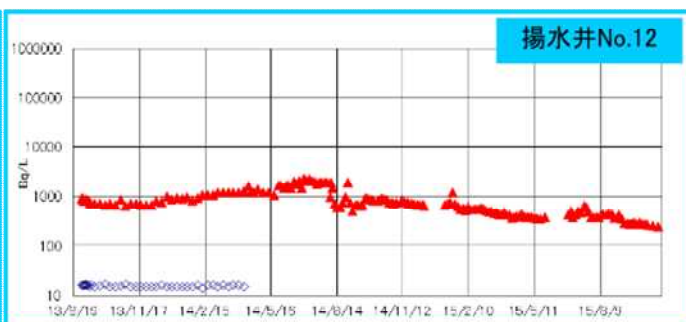
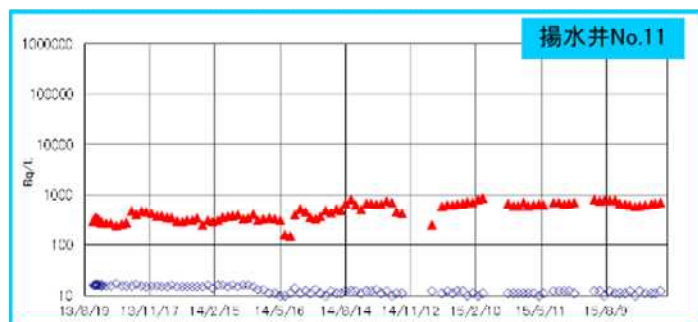
観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア北東側)

- 先月以降、全体の傾向に大きな変化はみられない。
- 揚水井No.10のトリチウム濃度は、2,000Bq/L程度で横這い状況。
- 揚水井No.9のトリチウム濃度も上昇傾向が見られるが、その他の観測孔は横這いか低下傾向。
- 全β濃度は、全体的に低濃度で横ばい状況。

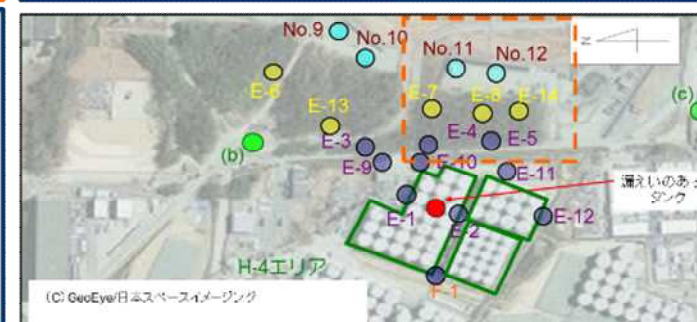
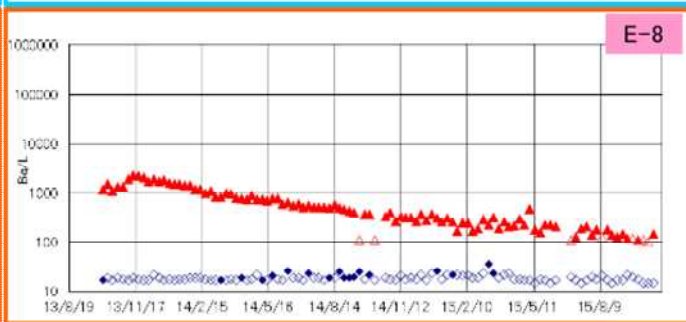


観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア南東側)

- 先月以降、全体の傾向に大きな変化はみられない。
- 全β濃度は、全体的に低濃度で横ばい状況。
- トリチウム濃度も、全体的に1,000Bq/L以下の低濃度で横ばい又は低下傾向。
- 引き続き観測を継続する。

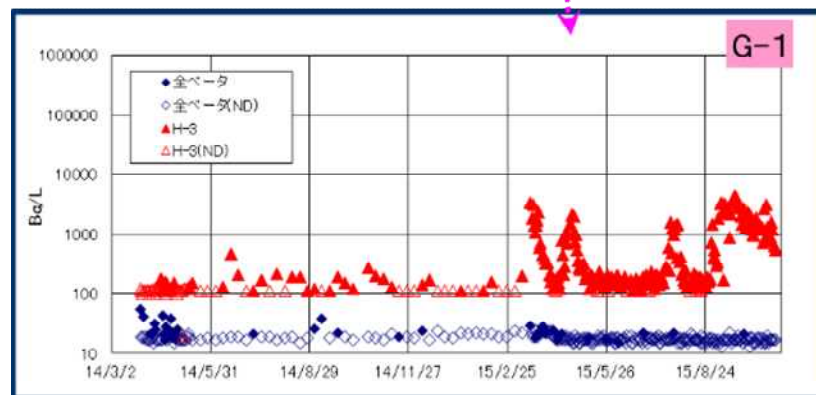
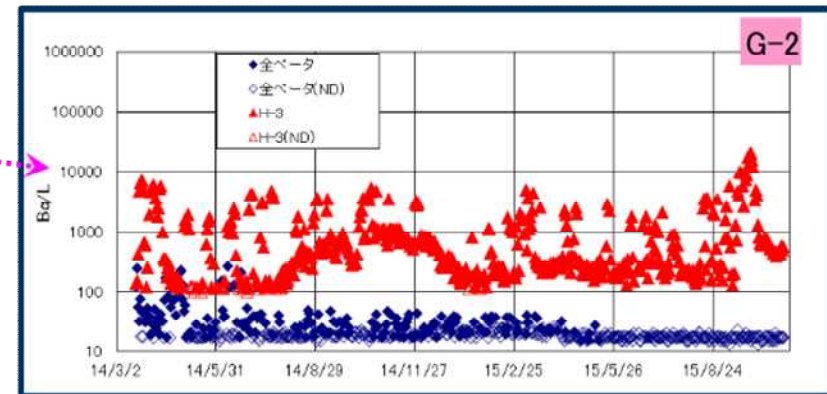
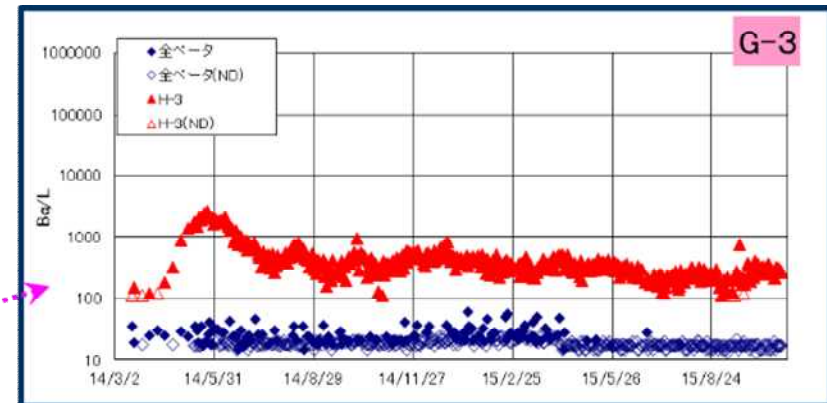
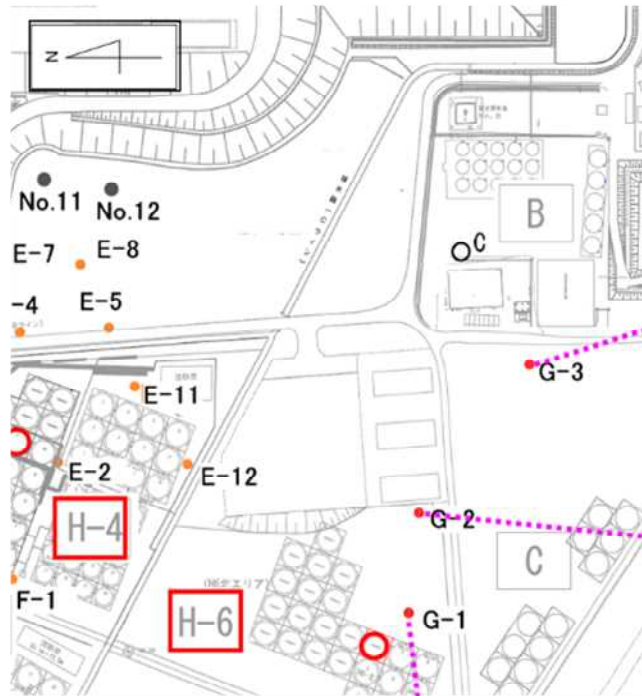


注: 揚水井No.12の全β濃度は、4/15以降も不検出であるが、検出下限値を5Bq/L以下に下げて運用しているため、グラフ上にプロットされていない。



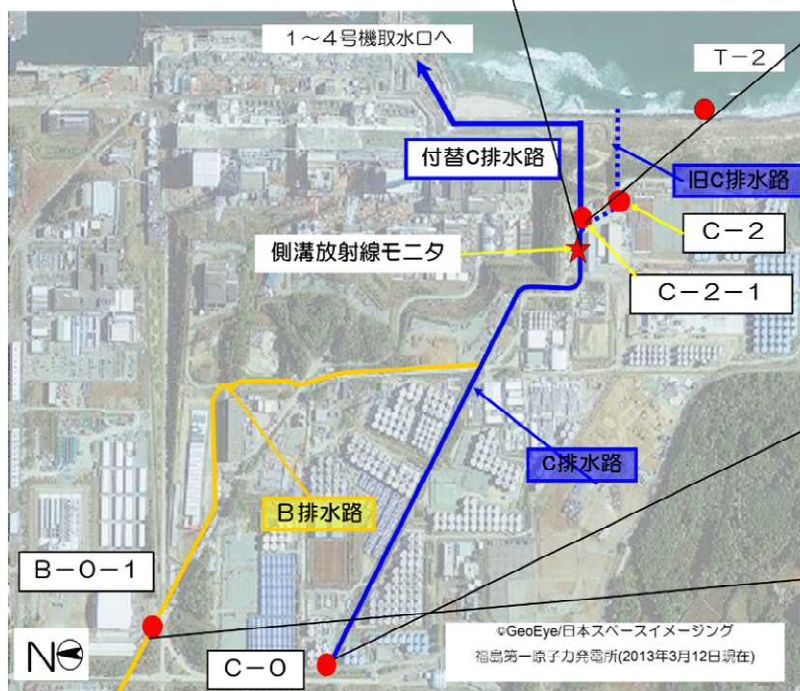
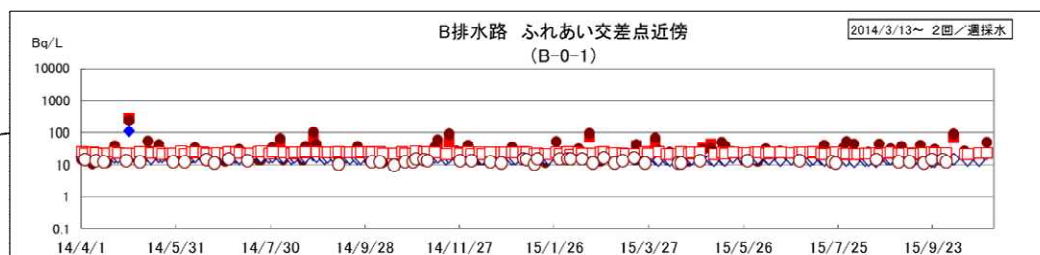
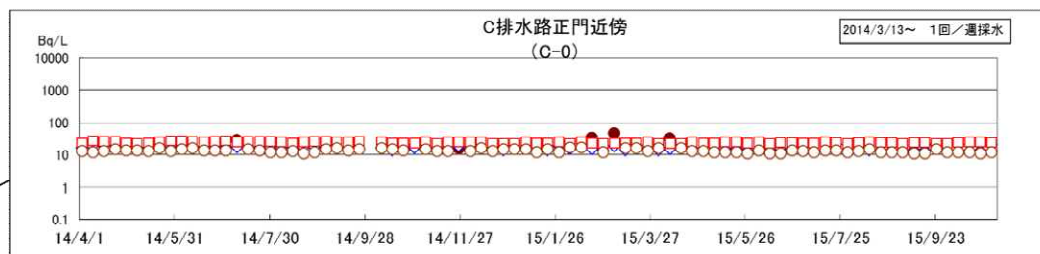
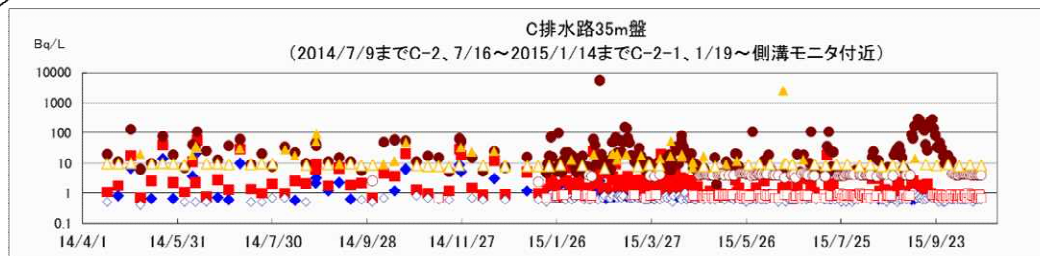
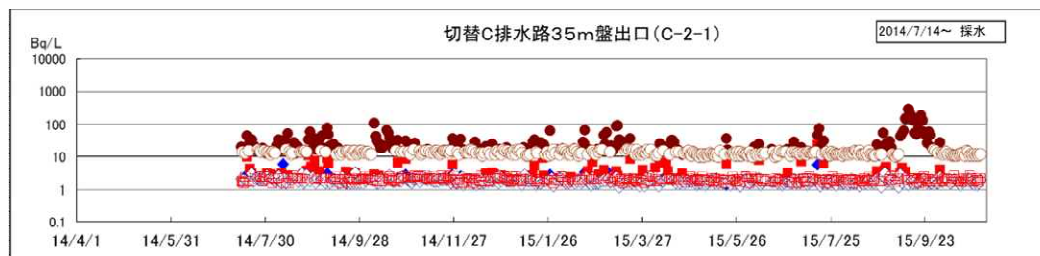
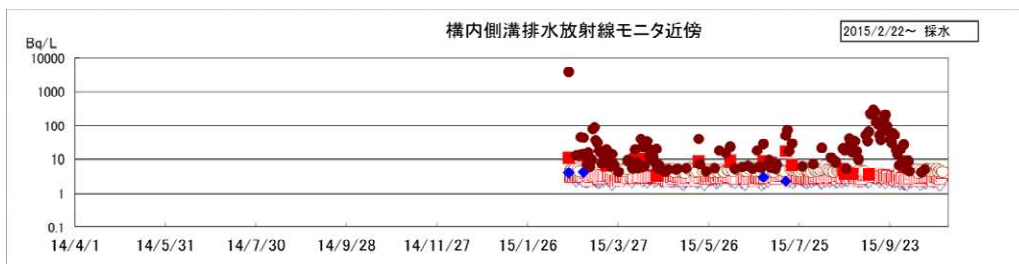
観測孔の放射能濃度推移 (H6タンクエリア周辺)

- G-1、 G-2観測孔では、8月～9月の降雨時にトリチウム濃度が上昇。
- G-3観測孔は、概ね横這い傾向。
- 引き続き監視を継続する。



排水路の放射能濃度推移 (その1 BC排水路)

- 9月の降雨時にC排水路で全ベータ濃度の上昇が見られたが、その後は降雨が少なく濃度は低下。

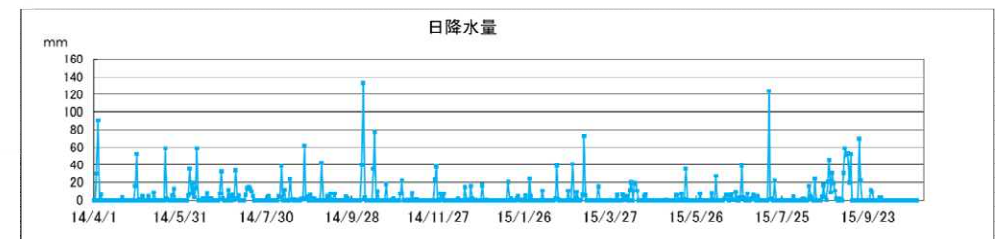
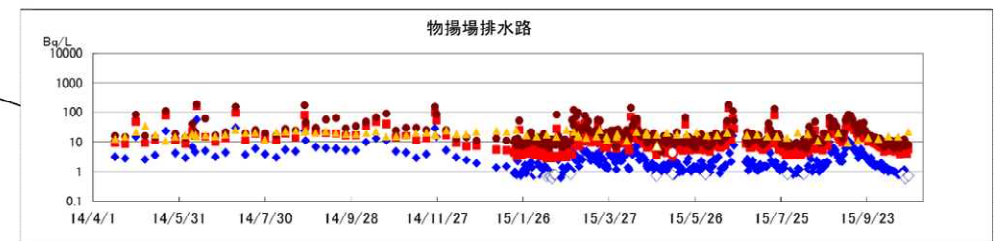
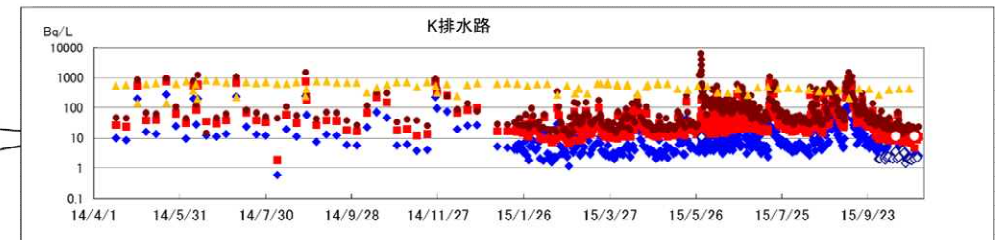
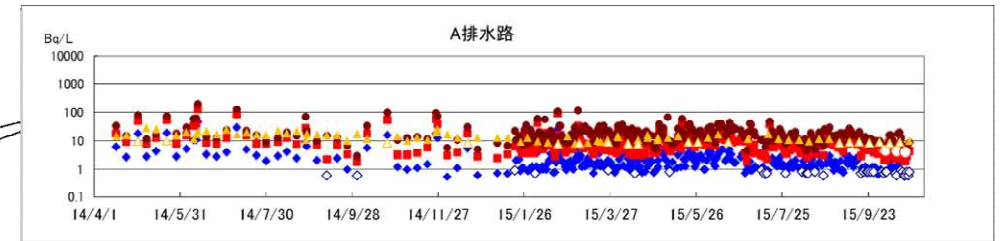


排水路の放射能濃度推移 (その2 K排水路、A排水路、物揚場排水路)

- 9月下旬からは降雨が少なく、K排水路、物揚場排水路も濃度が低下。
- K排水路については、臨時清掃を終了し、吸着剤を追加設置。



- 採水地点 (2015年1月14日以前)
- 採水地点 (2015年1月19日以降)



(2) 地下水バイパスの運用状況について

地下水バイパスの運用状況について

- 地下水バイパスは、2014年5月21日に排水を開始し、87回目の排水を完了
- 排水量は、合計 142,351m³

採水日	9月17日		9月24日		10月1日		10月8日		10月15日		運用目標	※1 告示 濃度 限度	WHO 飲料水 水質 ガイド ライン
	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関			
セシウム134 (単位: Bq/L)	ND(0.78)	ND(0.57)	ND(0.67)	ND(0.73)	ND(0.69)	ND(0.73)	ND(0.69)	ND(0.80)	ND(0.77)	ND(0.65)	1	60	10
セシウム137 (単位: Bq/L)	ND(0.74)	ND(0.42)	ND(0.58)	ND(0.55)	ND(0.72)	ND(0.77)	ND(0.56)	ND(0.62)	ND(0.53)	ND(0.50)	1	90	10
その他ガンマ核種 (単位: Bq/L)	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	※2 検出され ないこと		
全ベータ (単位: Bq/L)	ND(0.80)	ND(0.52)	ND(0.90)	ND(0.59)	ND(0.89)	ND(0.61)	ND(0.80)	ND(0.58)	ND(0.80)	ND(0.54)	5(1) ^(注)		
トリチウム (単位: Bq/L)	170	180	170	190	190	180	170	180	170	170	1,500	60,000	10,000
排水日	9月30日		10月7日		10月14日		10月21日		10月28日				
排水量 (単位: m ³)	2,003		2,115		2,109		2,006		1,825				

* 第三者機関: 日本分析センター

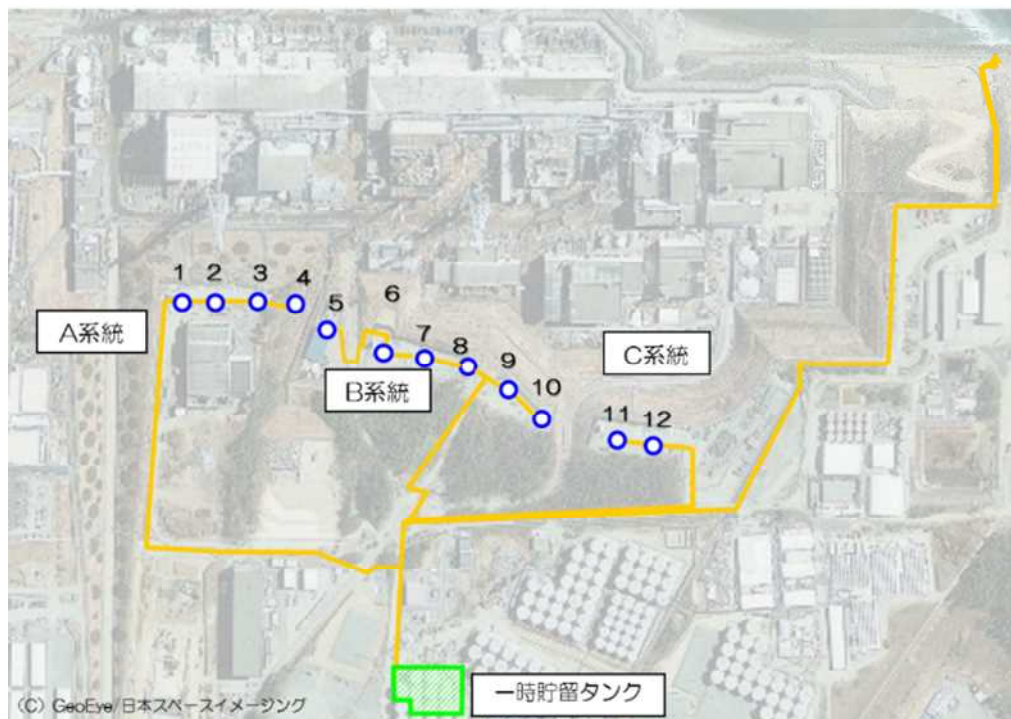
* NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

(注) 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第2第六欄: 周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])

※2 セシウム134,セシウム137の検出限界値「1Bq/L未満」を確認する測定にて検出されないこと(天然核種を除く)。

地下水バイパス揚水井の清掃状況



地下水バイパス 揚水井配置図

2014年9月中旬頃から、揚水ポンプ吸込口などに鉄酸化細菌等が付着し、流量が低下している（鉄酸化細菌は、トンネル等に一般的に存在する細菌類）。全井戸について、鉄酸化細菌等の発生が認められているため、ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜清掃・点検を実施中。

揚水井No	稼働状況	清掃実績
1	○	1回目：2015/9～10
2	○	1回目：2015/8～9
3	○	1回目：2015/7～9
4	○	1回目：2015/7
5	○	1回目：2015/5～7
6	○	1回目：2015/7～8
7	○	1回目：2015/6～7
8	○	1回目：2015/5～6、2回目：2015/11月上旬～（予定）
9	×	1回目：2015/4、2回目：2015/6～7 3回目：2015/10/06～2015/11中旬（予定）
10	○	1回目：2015/1～2、2回目：2015/4～6
11	○	1回目：2014/10～12、2回目：2015/2～3 3回目：2015/6～7
12	○	1回目：2014/12～1、2回目：2015/5～6 3回目：2015/11中旬～（予定）

【清掃方法】

- 各井戸の状況を勘案し、適切な清掃方法を選定する。
- 揚水ポンプ清掃、鋼管内壁ブラシ清掃、薬剤攪拌洗浄、底部土砂排出

【設備変更等の対策】

- 酸素の供給抑制対策の実施
 - 揚水井No.1、2、3、4、5、6、11は、地下水への酸素の取り込みを抑制する構造（循環水ライン）追設実施済。No.7、8、9、10、12は今後の清掃・点検に合わせ、順次追設予定。

地下水バイパス排水先の変更

○ 排水先の変更

〈変更前〉



〈変更後〉



旧C排水路
の排水口

- H27.8.21～22、高波により多量の土砂が地下水バイパスの排水先となっているK排水路末端部に堆積
- その後 9/10、10/8にも、同様の事象発生。その都度、土砂の撤去・回収作業を実施
- また、今後K排水路は廃止することから、排水先をK排水路末端部から、旧C排水路に切り替え（南方へ約160m移動）実施
- 10/21排水時から、旧C排水路への排水を開始

(3) サブドレン他水処理施設の状況について

(3)-1 サブドレン他水処理施設の状況について

(3)-2 海側遮水壁閉合の状況

(3)1-1. サブドレン他水処理施設の概要

●サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

＜集水設備＞

サブドレン集水設備

1～4号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

地下水ドレン集水設備

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンポンドから地下水をくみ上げる設備

＜浄化設備＞

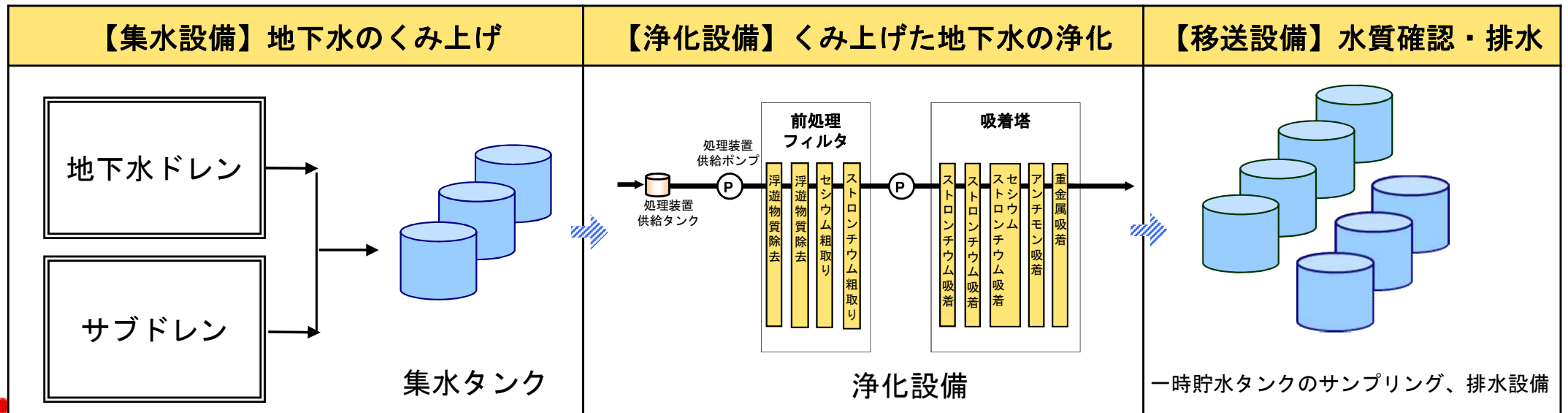
サブドレン他浄化設備

くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分低い濃度になるまで除去し、一時貯水タンクに貯留する設備

＜移送設備＞

サブドレン他移送設備

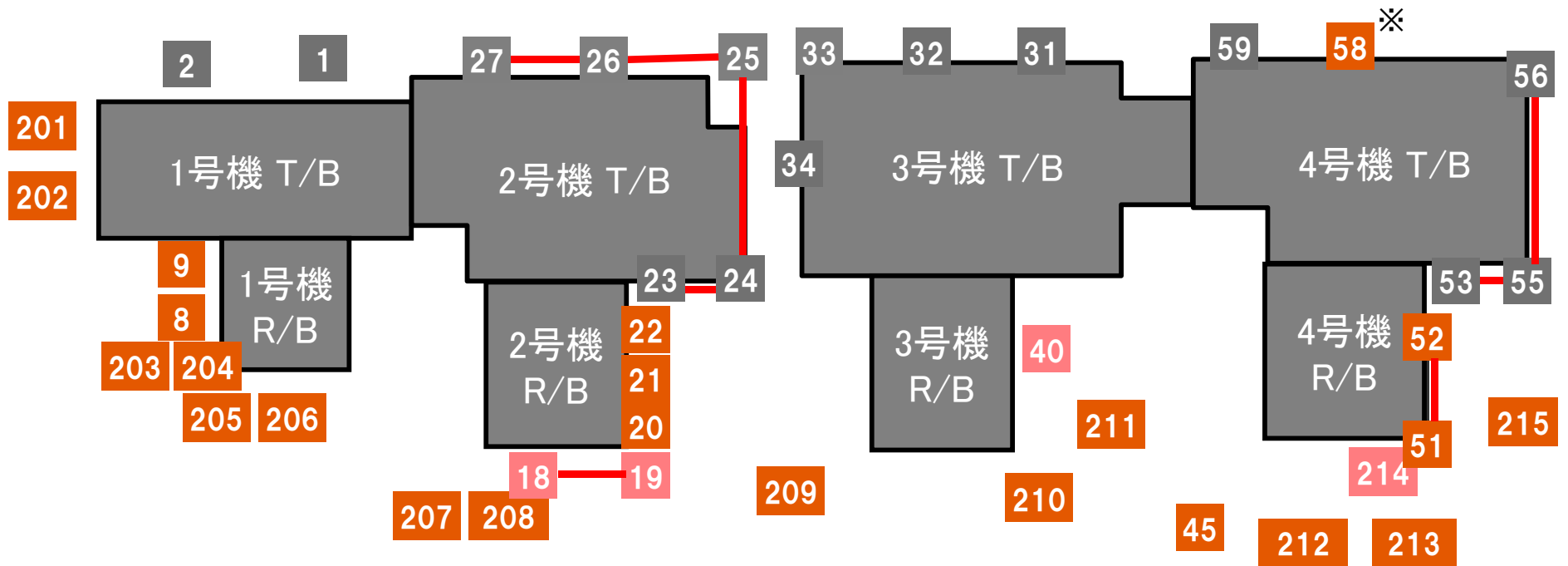
一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備



(3)-1-2. サブドレンの汲み上げ状況(24時間運転)

- 山側サブドレンL値をO.P.6,500(T.P.5,064)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
 実施期間：9月17日～
 L値設定：10月22日～O.P.5,500(T.P.4,064)で稼働中。
- 海側サブドレンL値をO.P.5,500(T.P.4,064)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
 実施期間(予定)：10月30日～
- 一日あたりの平均汲み上げ量：約350m³(9月17日15時～10月28日15時)

:稼働対象(自動)
 :稼働対象(手動)
 :稼働対象外(海側サブドレン)

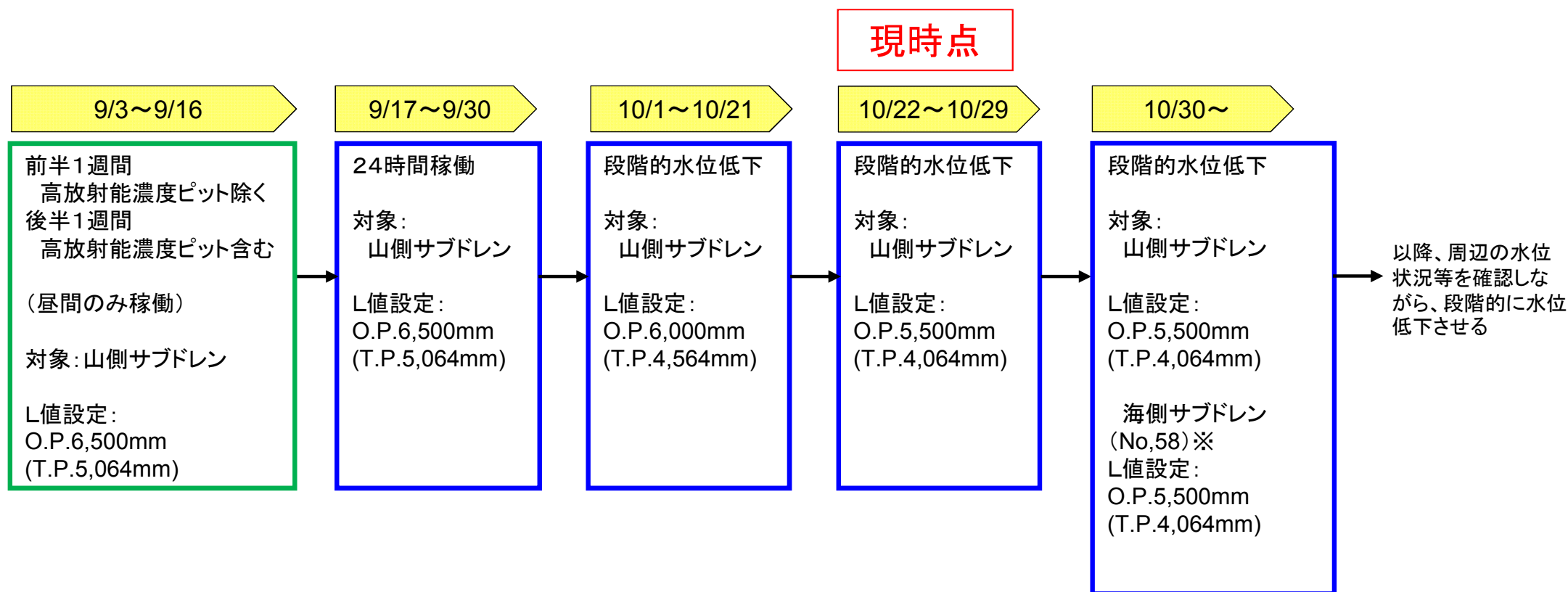


(注) No. 201～215はN1～N15と同一。

※No. 58は手動による短時間稼働とする。

— : 横引き管

(3)-1-3. サブドレン稼働状況



※ No,58以外のピットについては水位の状況等を確認し、順次稼働を計画。

(3)-1-4. 排水実績(1/2)

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、10月27日までに20回目の排水を完了。排水量は、合計14,916m³。

排水日		9/28	10/2	10/3	10/5	10/6	10/8	10/9	10/11
一時貯水タンクNo.		G	A	B	C	D	E	F	G
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	9/11	9/19	9/21	9/23	9/25	9/27	9/30	10/1
	Cs-134	ND(0.75)	ND(0.63)	ND(0.79)	ND(0.69)	ND(0.77)	ND(0.85)	ND(0.81)	ND(0.69)
	Cs-137	ND(0.67)	ND(0.53)	ND(0.53)	ND(0.66)	ND(0.58)	ND(0.66)	ND(0.76)	ND(0.80)
	全β	ND(0.94)	ND(0.80)	ND(0.85)	ND(0.85)	ND(0.89)	ND(0.94)	ND(0.83)	ND(2.0)
	H-3	420	470	410	320	250	250	230	200
排水量(m ³)		715	786	532	727	451	652	833	778
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	9/9	9/17	9/19	9/21	9/23	9/25	9/27	9/29
	Cs-134	61	120	30	44	ND(11)	ND(11)	60	ND(12)
	Cs-137	260	570	100	200	40	77	260	22
	全β	300	700	—	240	—	—	—	41
	H-3	310	440	310	320	240	150	330	170

* NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

* サブドレン浄化設備による浄化により、一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標(Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L))未満であることが確認できている。

* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を1 Bq/Lに下げて実施。

* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

(3)-1-4. 排水実績(2/2)

排水日		10/15	10/16	10/18	10/20	10/22	10/23	10/25	10/27
一時貯水タンクNo.		A	B	C	D	E	F	G	A
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/5	10/6	10/7	10/9	10/12	10/13	10/15	10/17
	Cs-134	ND(0.54)	ND(0.56)	ND(0.65)	ND(0.81)	ND(0.68)	ND(0.73)	ND(0.67)	ND(0.81)
	Cs-137	ND(0.63)	ND(0.58)	ND(0.58)	ND(0.58)	ND(0.53)	ND(0.50)	ND(0.58)	ND(0.60)
	全β	ND(0.8)	ND(1.9)	ND(2.4)	ND(2.0)	ND(2.3)	ND(0.85)	ND(2.2)	ND(2.0)
	H-3	210	320	270	290	300	230	220	210
排水量(m ³)		727	905	800	822	802	736	693	647
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/1	10/3	10/5	10/7	10/9	10/11	10/13	10/15
	Cs-134	17	16	ND(10)	15	13	27	28	15
	Cs-137	79	87	36	76	83	97	130	86
	全β	—	—	48	—	—	—	170	—
	H-3	160	330	360	320	320	260	230	240

* NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

* サブドレン浄化設備による浄化により、一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標(Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L))未満であることが確認できている。

* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を1 Bq/Lに下げて実施。

* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

(3)-2-1. 海側遮水壁閉合作業（鋼管矢板打設）の状況

- ◆ 海側遮水壁の鋼管矢板は9/22に打設完了。
- ◆ 海側遮水壁閉合作業は、10/26に作業完了。

【鋼管矢板打設状況】

＜鋼管矢板打設前＞



＜鋼管矢板打設完了後＞



今般打設箇所（9本）

【閉合作業実績】

●鋼管矢板打設作業状況

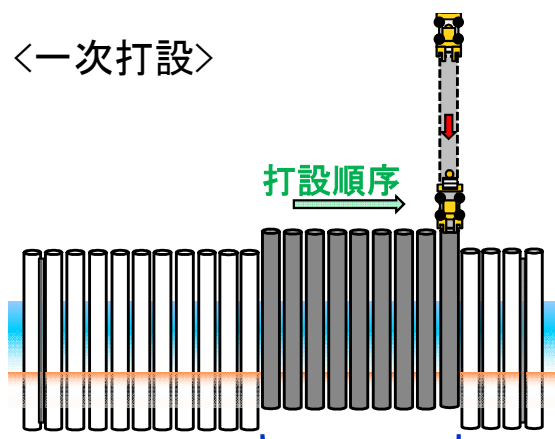
- 9月10日 鋼管矢板一次打設開始
- 9月19日 鋼管矢板一次打設完了
- 9月22日 鋼管矢板二次打設開始・完了

●継手処理作業状況

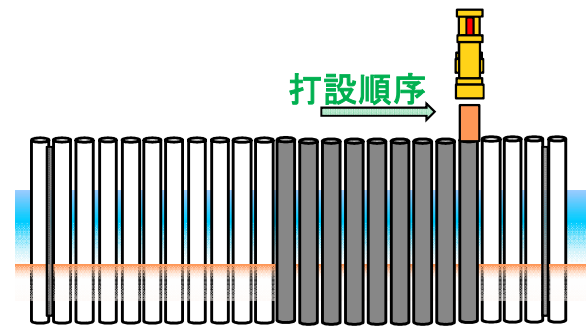
- 10月 8日～19日 継手洗浄実施・完了
- 10月10日～26日 モルタル注入実施・完了

【鋼管矢板打設作業概要】

＜一次打設＞



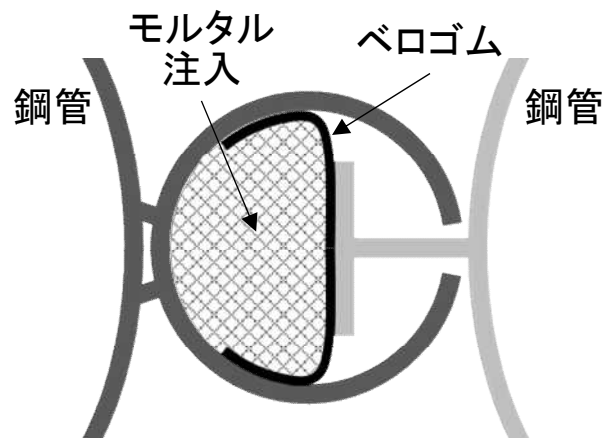
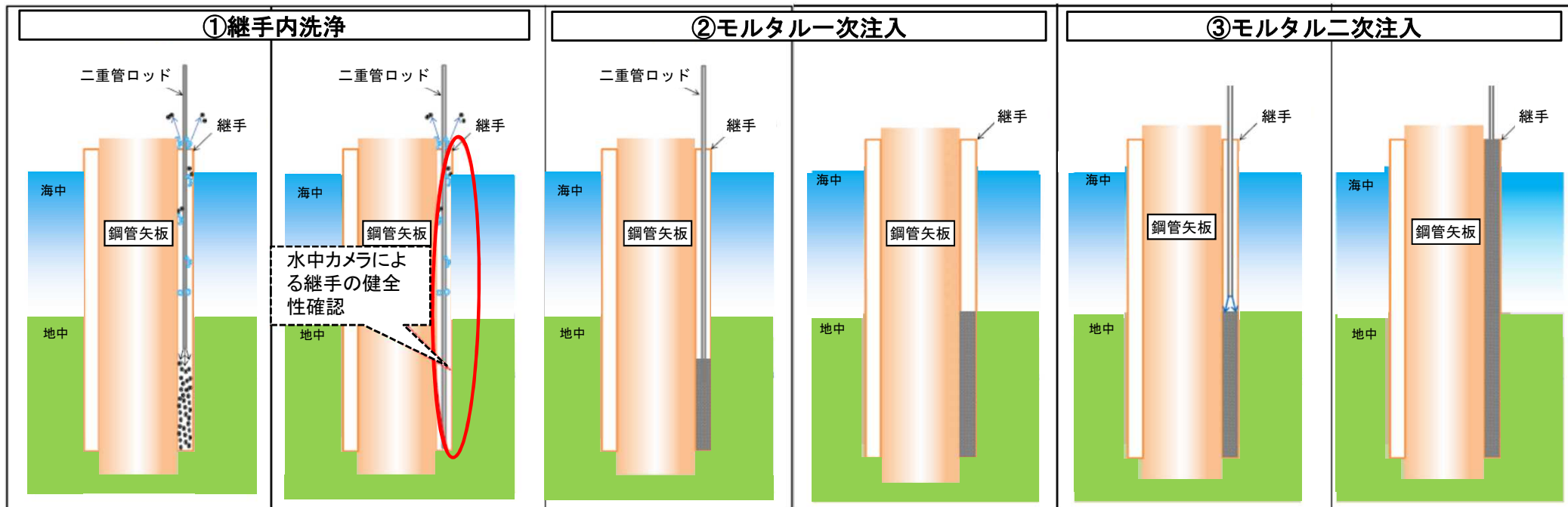
＜二次打設＞



今般作業で打設する鋼管矢板（9本）

(3)-2-2. 海側遮水壁閉合作業(継手処理)の手順

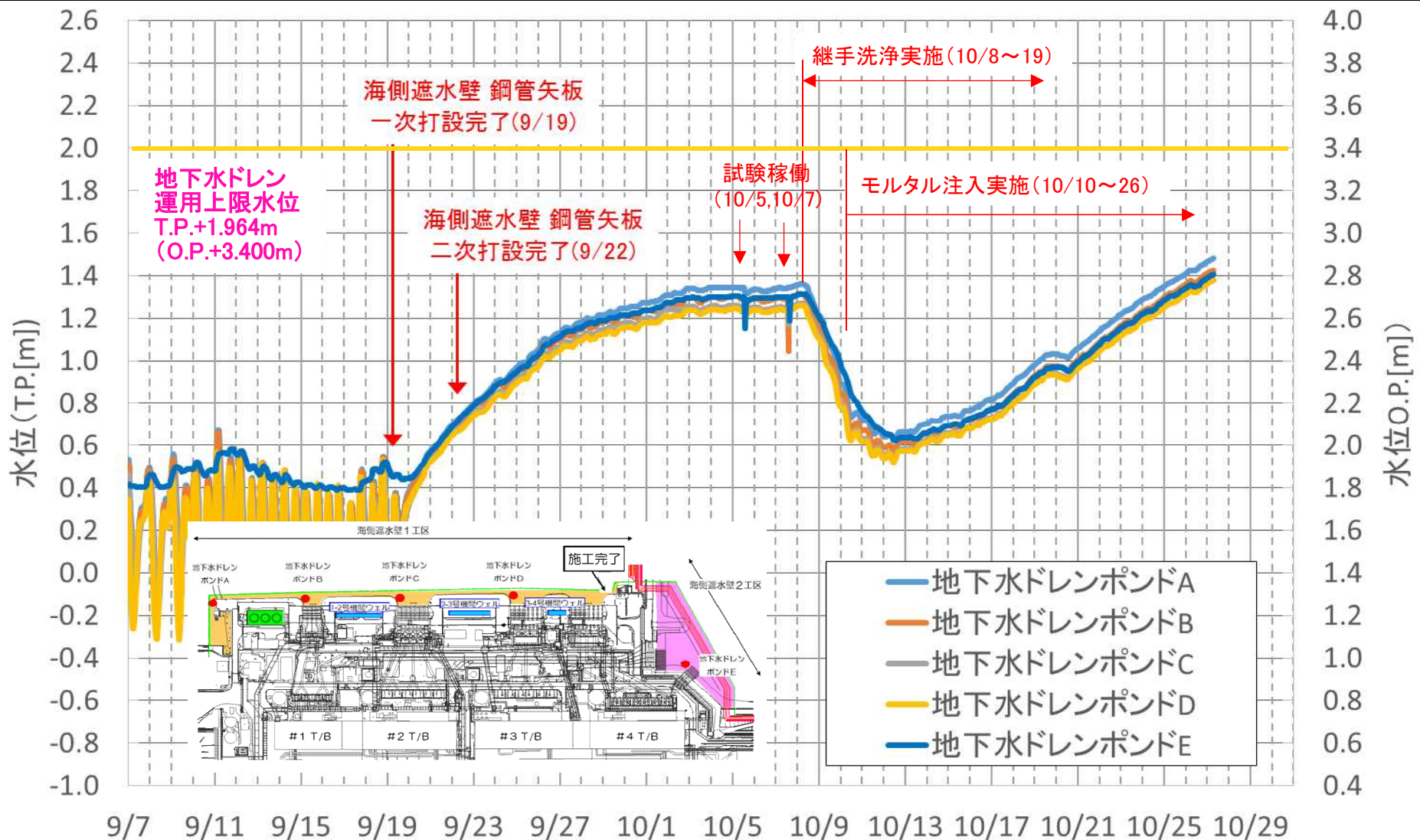
◆ 鋼管間の継手内部を洗浄した後、モルタルを2段階に分けて注入。



海側遮水壁の継手構造

<参考1> 海側遮水壁の閉合作業と地下水ドレン水位の変動

◆ 地下水ドレンpond水位は、鋼管矢板打設完了後上昇し、継手洗浄（10/8～9, 19）後に一時低下がみられたが、継手へのモルタル注入により上昇。

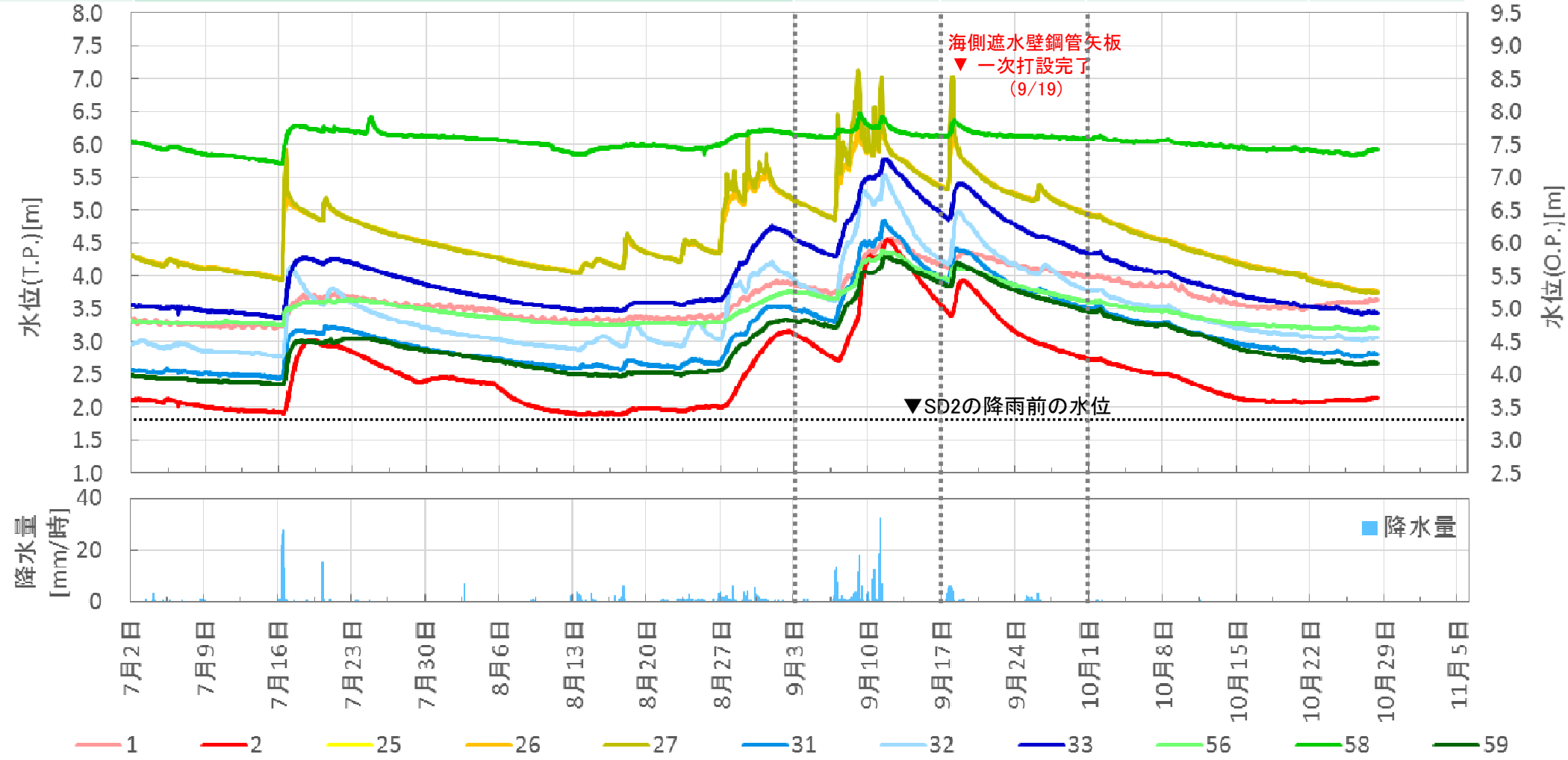


※水位(O.P.)は、震災前標高と比較しやすいよう、目安として記載しているもの。
(水位(T.P.)を水位(O.P.)に換算する場合は、約1.4m~1.5m加算する。)

<参考2> 海側に位置する非稼働サブドレンの水位変動

- ◆ 山側サブドレン稼働の影響は見られず、海側サブドレンの水位は概ね安定傾向にある。
- ◆ 最も水位の低いNo.2ピットについては上昇傾向を示し始めている。

稼働条件	～9/3	9/3～9/16	9/17～9/30	10/1～10/21	10/22～
稼働時間	非稼働	昼間	24時間	24時間	24時間
ポンプ停止水位	非稼働	O.P.6.5m	O.P.6.5m	O.P.6.0m	O.P.5.5m



〈参考3〉 建屋流入量実績

- サブドレン汲み上げ開始後の建屋流入量

期間	日平均流入量(m ³ /日)	山側サブドレン稼働状況
9/3~9/10	約 710	昼間のみ運転
9/10~9/17	約 610	昼間のみ運転
9/17~9/24	約 380	O.P.6500mm 連続運転
9/24~10/1	約 310	O.P.6500mm 連続運転
10/1~10/8	約 200	O.P.6000mm 連続運転
10/8~10/15	約 130	O.P.6000mm 連続運転
10/15~10/22	約 230	O.P.6000mm 連続運転

注) 建屋流入量は降雨等の条件により変動するため、建屋流入抑制効果については、データを蓄積しつつ、評価手法も含めて検討中。

〈参考4〉 地下水ドレン水位と港湾内海水中放射性物質濃度の推移

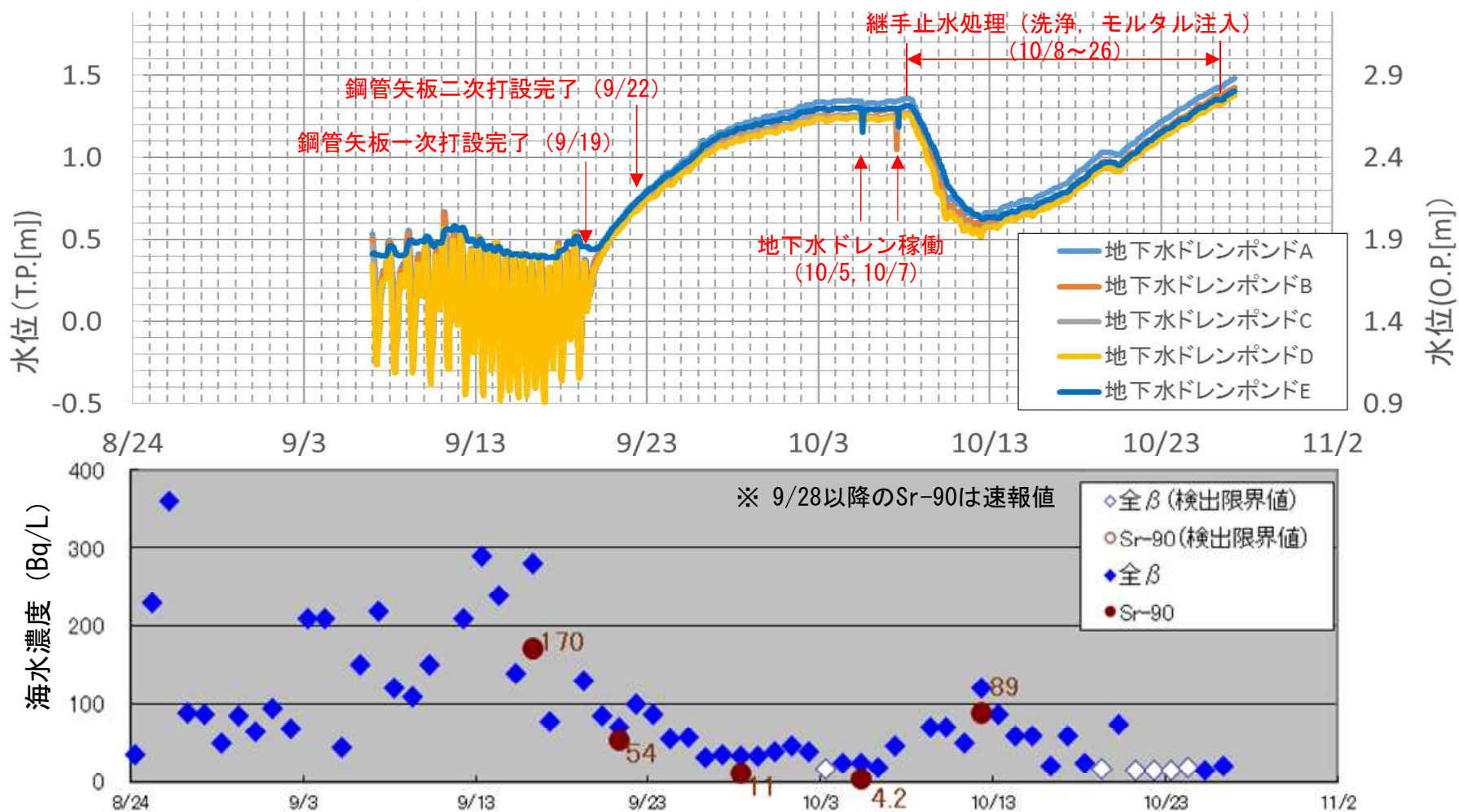


図 地下水ドレン水位と1～4号機取水路開渠内(南側遮水壁前)海水中放射性物質濃度の推移

- 地下水ドレンポンド水位は、鋼管矢板打設後上昇し、継手洗浄(10/8～9,10/19)後に一時低下がみられたが、継手へのモルタル注入により上昇が継続している状況。
- 港湾内の海水中の全β濃度は、地下水ドレンポンド水位に連動して低下傾向にあり、Sr-90の分析でも同様なデータが得られている。
- Csについても低い濃度で推移しているが、排水路の濃度も低くなっており、今後もモニタリングを継続。